名古屋大英語を受講する皆さんへ

大学別の対策集の冒頭に，こういう宣言をするのは，どうかなとも思いますが，あくまで傾向や対策は，傾向と対策にすぎません。すなわち，傾向と対策を知れば受かるのではなく，最短の道がわかる，少しでも点数を高く取るためのものです。

やはり，名大の合格に必要なのは，解き方や読み方といった小手先のテクニックではなく，しっかりした英語力，どんな問題にもぶれない英語力なんです。そこはどうしても，誤魔化したくなかったので，授業では，徹底してそこを追求させてもらいます。合格するのに必要なのは，必殺ルールのような小見出しではなくて，**徹底した語彙力**と**音読により培った英文処理のスピード**と**確かな文法力に基づいた構文把握力**に**文と文のつながりを理解する論理力**です。

また，従来の対策集では，体系化されていない大問１問載せているだけでしたが，あえて**捨て問は外して**，正解しなければいけない問題・正解すべき問題に厳選して，**体系化して効率性を重視**しました。名大の入試問題は，満点を取る必要はありません。７割取れば受かるのであって，合格するには，それを全科目満たせばよいのです。

授業を受動的に聞くだけでは，自分で問題を解ける力はつきません。必ず予習して，授業を受け終わったあとの復習を何より重視してください。新出の単語・文法事項を覚える・文章を 10 回音読するといった地道な作業を 10 回続けてみてください。**復習テストをすべて突破して**，全講分やり終えたあとには，必ずや名大の合格に近づいている自分が実感できるはずです。

肘井　学

テキストの特徴

授業を聞くだけでは，自分で実際の問題を解ける本物の力はつかないので，皆さんの復習を前提とした構成となっています。

それを手助けするために，読解の解答のあとに**重要語彙リスト**をつけてます。ここから**直接復習テストに出ます**ので，すべて必ず覚えてください。**単語力はすべての英語力の源**です。

さらに，授業後の復習に音読するための白文を読解の解答の最後につけていますので，必ず授業後に，①全文構文把握⇒②単語暗記⇒③本文 10 回音読の復習を欠かさずやってください。

次に，英作文の分野はただ板書しただけだと，何を覚えてよいかわからないので，**Input Sheet を解答の各講の最後に掲載**して，**何をどのように覚えたらよいかを明らか**にしました。右を隠して，答えを出せるように何度も繰り返してください。

目次

第 0 講	予習復習方法	p.3 ～ p.7
第 1 講	下線部和訳演習①	p.8 ～ p.15
第 2 講	下線部和訳演習②	p.16 ～ p.23
第 3 講	長文総合問題①	p.24 ～ p.33
第 4 講	長文総合問題②	p.34 ～ p.43
第 5 講	長文総合問題③	p.44 ～ p.51
第 6 講	長文総合問題④	p.52 ～ p.59
第 7 講	会話問題演習	p.60 ～ p.65
第 8 講	和文英訳演習①	p.66 ～ p.71
第 9 講	和文英訳演習②	p.72 ～ p.77
第 10 講	長文総合問題⑤	p.78 ～ p.88

第０講　　予習復習方法

一　予習について

＊授業で扱う文は，解法や読み方を学ぶためだけのものではなくて，そこに出てきた単語・熟語・構文すべてを学び取るもの。その文章で出てきた単語・熟語・構文は，必ず次の文にも出てくるものです！！

① 問題を解く（**長文は１問30分**と時間を決めて解く）
② 全文構文を把握しながら，意味を取っていく
③ わからない単語の意味を辞書で調べて，テキストに書き込む。授業は単語の意味合わせではないので，このことだけはしっかり予習段階でやってくるようにお願いします。
④ 前置詞の作るかたまりを特定する
⑤ 接続詞のつないでいるものを特定する（and, but, or）
⑥ 代名詞・指示語が何を指すか特定する（it, they, them, this）
⑦ 関係詞節の範囲を特定する
⑧ 不定詞の三用法を特定する
⑨ 分詞の名詞修飾を特定する

④〜⑨は，授業内で毎回指摘するので，予習時にやっておいて，授業では自分の精度の確認をしてください。

二　講義について

板書を急いで取ること。ぼくが黒板に書き始めた途端に，急いでノートを取ってください。役に立たない内容は，板書しないので，これ見てるだけでいいよといった板書以外は, しっかりノートに取ってください。書いて覚えるというメリットもあります。全訳はしないこと，解答にすべてあります。わからない部分だけの書き込みにすること。**板書の書き出しに, ぼくと板書が重なって見えない時は, 書き終えたら必ず見えるアングルに移動しますので，あわてずに，見えるようになってから板書をスタートしてください**。板書が書ききれない場合は，動画を一度止める・巻き戻すなどして，書き取ってください。これも映像授業のメリットです。

授業中眠くなる時があるのは，ぼくもいたいほどわかります。ただし，こらえること。講義動画は，30 分前後で 1 本にあえて区切ってあります。

三　復習について

＜文法編＞

授業では徹底して頭を使って，理解することに重点を置きました。復習では，**頭を使いながら，やはり繰り返すこと**が重要です。解答の最後に，Input Sheet といって，何を覚えるかを明らかにしてありますので，板書とそちらを見ながら，何度も繰り返して，知識を定着させてください。

＜読解編＞

毎年毎年，奇跡的な合格をはたしている生徒たちに伝授している秘伝です。何千人も生徒を教えてきて，これ以上に，成績を上げる方法は，いまだ思いつきません。といっても，急に奇跡が起こるようなそんなおいしい話なんてなくて，ぼくが練りに練り上げたその方法は，毎日毎日，ひたすら地道な作業を繰り返していくだけです。**一つの文章に対する密度を上げる**，それが遠回りに見えて，最も合格に近い道であることは，今までのぼくの生徒たちが証明してくれています。

復習その１　本文全体の構文把握

授業中に入れたスラッシュや括弧を利用して，全訳と照らし合わせて，SV はどれか，どこからどこまで一つの意味のかたまりで，どこがどこに修飾しているか確認して，意味を取っていく。

復習その２　知らない単語を，すべて覚える

解答の各講の最後にある重要語彙リストを利用して，

① **日本語とセットで**，英語／日本語の順に，3 回**書いて覚える**

② **日本語とセットで**，英語／日本語の順に，10 回**唱えて覚える**

⇒ 2，3 回繰り返しただけで覚えられない，暗記が苦手と嘆かないこと！　暗記に必要なのは，繰り返すこと，英語のできる子たちは，人より多く繰り返しているだけです!!

復習その３　文章を 10 回（長い文章は５回）音読する

音読の具体的な方法論と効果を説明します。

① 解答の各講の最後にある音読用英文で，1回読むごとに右上の数字に一つ斜線を入れていく。
② 次に，自分なりの発音でよいから，1文目を発声する（自習室では，自分だけに聞こえる程度の声で）。
（参考）He could not explain the reason for his instinctive avoidance of them.
（ヒークゥドノットイクスプレインザリーズン・フォーヒズインスティンクティヴアヴォイダンスオヴゼム）
③ 次に，構文を追いながら，意味を頭で考える。
「彼は，彼が本能で彼らを避ける理由を説明できなかった。」
④ この手順で，最後まで読む。数字の①に斜線を入れて，10回繰り返す。

効果としては，まず**単語を生きた状態で学べる**。単語一つを覚えるのも重要ですが，それだけだと死んだ単語。文章中で出てきても，意味が思い出せない，何だか意味が取れないと思ったことありますよね。

次に，**正確な構文力がつく**。構文の処理を10回も繰り返せば嫌でも得意になります。

最後に，実はこの方法論こそが，皆さんが求める速読への最大の近道なんです!! 1回目に読んだ時の大変さ，遅さ，それは単語の記憶があいまいなせいで，構文を取るのが遅くて不正確なせいで，読むのが遅いんです!!

10回目に読んだ時のスピードと比較してみてください。10回目は，なんと早く読めることでしょうか。単語の意味が正確に出てきて，構文をすばやく取れる，それが速読の真の正体なんです!!　英語を英語のまま理解できるという状態に達するのは，音読で徹底して繰り返した時に起きる現象なんです。

単語個の力と，文章の中で覚えた生きた単語力，その相乗効果こそが，最高に英語が得意になる秘訣なんです!!

あとは，これを1日1文，1週間で5文やってみてください。早い人で3カ月で見違えるような効果が生まれてきます。ぼくの英語の授業を完成させるかどうかは，皆さんの復習しだいです。

四　復習テストについて

この授業の趣旨を理解していただいた皆さんは，いかに復習が大切で，復習こそが英語力を高める最大の近道であるかに気づいていただいたはずです。**授業を終えたあとこそ一番大事**，椅子に座って話を聞いて満足するだけじゃなく，そのあとに自ら能動的に動くこと＝復習することが一番大切なんです。ところが，人間一人ではなかなか，気持ちを持ち続けることが難しいために，その復習をぼくたちが徹底してサポートして，二人三脚でこの最も大事な復習を続けていきます。

そのために，次の授業の前に，**前回のチェックテスト**を実施してください。文法編は，授業で扱った内容をほかの大学での入試問題で確認していきます。読解編は，授業で指摘したポイントの確認，解答の最後にある重要語彙リストからの出題で，しっかり音読と語彙の定着がなされているかをチェックしていきます。いずれも，前回やった内容からの出題なので，満点で先に進んでください。

すべては，第一志望校に受かるため，英語力をつけるための最短の道と理解して，必死で臨んでください。

第１講　　下線部和訳演習①

今日のポイント

次の下線部を和訳しなさい。

１. Aimless *rambling across the *moors of our imaginings may lead us to *stumble on ideas and associations that we may never find if we strive to seek them. *ramble ぶらつく　moor 荒野　stumble on 偶然出会う

(　　　　)

２. The goal of the project is to break down the barriers that humans have built which allow us to treat non-human animals as objects and not as creatures with feelings.

(　　　　)

３. People in Nepal might still be wondering if other causes might be responsible for the crime.

(　　　　)

4. What made this otherwise all-too-common offense unusual was the department head who signed the letter was also a woman.

(　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　)

NOTE

☆　因果構文

① cause, lead to, bring about, result in, be responsible for

② come from, result from, arise from, be attributed to

③ 無生物主語＋五文型

5．Revised every five years since, these targets have produced notable improvements in water quality over the years.

（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

6．The Spartan army arrived on the scene one day late, delayed by an important religious festival that ended in a full moon.

（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

7．This second ranking is a little surprising given the relatively lower birthrate among local Japanese and the lack of significant immigration from Japan.

（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

8．（兄弟喧嘩の対処法の話）

Depending on the severity of the problem, a parent might express confidence that the kids can solve it and then leave the room.

（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

9．He delivered a lecture on Japanese poetry which so inspired me that later, wide-eyed with excitement, I was able to repeat it almost word for word to a friend.

NOTE

☆　分詞構文の基本

① 文頭（Doing or p.p. ～ , SV.）⇒ 時・理由

② 文中位（S, doing or p.p. ～ , V.）⇒ ～だが

③ 文尾（SV, doing or p.p. ～ .）⇒ そして～

10. Each child should be appreciated individually — though not necessarily equally — and should be praised as if he were an only child.

(　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　)

11. A new generation of scientists believe that creatures, including birds, can solve problems by insight and even learn by example, as human children do.

(　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　)

12. I myself might have been the eager frog, and Japan, with all its undiscovered riches of language, literature, and tradition, the ancient pond just waiting for me to dive in.

(　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　)

13. I had no more desire to sample the literature of Japan than I had to eat fish and rice for breakfast instead of cereal and milk.

(　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　)

NOTE

☆　省略の基本

① 関係詞の省略

② 接続詞＋ S be

③ 既出表現の省略

④ 代不定詞＋代動詞

大学別対策講座　名古屋大英語　復習テスト　第一回

＊下線部を日本語に訳しなさい。

１. The goal of the project is to break down the barriers that humans have built which allow us to treat non-human animals as objects and not as creatures with feelings.

(　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　)

２. The army arrived on the scene one day late, delayed by an important religious festival that ended in a full moon.

(　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　)

３. I had no more desire to sample the literature of Japan than I had to eat fish and rice for breakfast.

(　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　)

＊次の英語の意味を書きなさい。

4	association	
5	strive to do	
6	be responsible for	
7	revise	
8	notable	
9	scene	
10	delay	
11	given	
12	immigration	
13	severity	
14	inspire	
15	appreciate	
16	insight	
17	sample	

NOTE

第２講　　下線部和訳演習②

今日のポイント

次の下線部を和訳しなさい。

１. It is the mathematical aspect that makes possible what physicists mean by the word ‘theory’.

(　　　　)

２. Remember, it is not only the person you are writing to who may read the letter.

(　　　　)

３. It wasn’t until the dawn of the Industrial Revolution around 1800 that human growth and its impact on the environment began to explode.

(　　　　)

４. It was cheap French labor that accounted for the machine’s slow adoption on the continent, not the superior scientific ingenuity of the British.

(　　　　)

5. It is perhaps because our lives are so enriched by technology that we worry about becoming dependent upon it, doubt its promises and fear the future it might create for us.

(　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　)

NOTE

6. The alarmists would have us believe that science proceeds in huge leaps and bounds for which we are not prepared.

(　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　)

7. We know more about objects, events and people than we are ever fully able to express in words. Consider the difficulty of saying all you know about the familiar face of a friend. The fact is that your best effort would probably fail to convey enough information to enable someone else to single out your friend in a large crowd.

(　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　)

8. If the human condition has always been bound by warfare, then a pessimism about the prospect of changing this and an investment in a heavily armed nation state would be the rational choice. If human nature is ultimately peaceable, then it makes more sense to be optimistic, to believe all disputes can eventually be resolved nonviolently, and to work for an international order dedicated to negotiation and agreement.

(　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　)

９.（賢い人は，最悪の結果を予想できるので，新たな課題から身を引いてしまうという記述に続いて）

Among these non-constructive ways of thinking was holding to private superstitions, such as believing that talking about potential success would keep it from happening.

（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

NOTE

10. Since our surface area is so small at our large size, we are ruled by the forces of gravity acting upon our weight. But gravity means next to nothing to very small animals with high *surface-to-volume ratios; they live in a world of surface forces and judge the pleasures and dangers of their surroundings in ways foreign to our experience.

*surface-to-volume ratios　体重に対する表面積の割合

(　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　)

11. The nature and function of medicine has gradually changed over the past century. What was once a largely *communicative activity aimed at looking after the sick has become a technical enterprise able to treat them with increasing success.

*communicative　コミュニケーション中心の

(　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　)

12. On a global basis, in terms of *sheer numbers reached, other forms of communication cannot compete with the words and pictures carried in newspapers, broadcasts, magazines, and advertising. For example, the ways women are presented in the mass media strongly affect people's notions on woman's place, as it is and as it ought to be.

*sheer　真の

(　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　)

NOTE

大学別対策講座　名古屋大英語　復習テスト　第二回

＊下線部を日本語に訳しなさい。

1. It was cheap French labor that accounted for the machine's slow adoption on the continent, not the superiority scientific ingenuity of the British.

(　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　)

2. A pessimism about the prospect of changing this and an investment in a heavily armed nation state would be the rational choice.

(　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　)

3. Gravity means next to nothing to very small animals with high surface-to-volume ratios.

(　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　)

＊次の英語の意味を書きなさい。

4	dawn		13	make sense	
5	explode		14	optimistic	
6	enrich		15	dispute	
7	proceed		16	resolve	
8	in leaps and bounds		17	dedicate	
9	single out				
10	warfare				
11	bind				
12	ultimately				

NOTE

第３講　　長文総合問題①

新任の小学校教師の体験を描いた次の英文を読み，設問に答えなさい。

The chaos in their classes demolished Mr. Levin's and Mr. Feinberg's assumptions that their charm, intelligence, and energy would guarantee their success. Anarchy reigned. Children raced up and down the halls. Few of them did their homework. Noise was a constant problem. Students were unimpressed with the new teachers' *Ivy League degrees and clever talk.

Quincy, for instance, was in Levin's class at Bastian Elementary School. He was a sixth grader but didn't look it. Five feet ten inches tall, he was often angry and mean. He teased, taunted, and slapped other children. He paid no attention (　A　) teachers who told him to stop. (1)He saw no reason to do anything asked of him by Levin, who had almost no experience disciplining children.

Levin sought advice from his principal and the mentor teacher assigned to him. Much of what they told him was (　ア　) or didn't work. The general disorder at the school convinced him that the principal, despite her good heart and (　イ　) desire to make things better, was not going to be much help with Quincy.

It occurred to Levin and Feinberg, in their weary conversations, that (2)they were trying too hard to be what they thought teachers should be, and not trying hard enough to be themselves.

今日のポイント

NOTE

They had good instincts in other parts of their life. Why not in their classes? On a particularly（　ウ　）day, Levin responded disastrously to this insight without considering that it might conflict with rules for teacher behavior, and with the law. As usual, Quincy was wandering around the room, harassing other students. “Sit down, Quincy,” Levin said. Quincy acted as if Levin did not exist.

“Sit down now!”

No response.

Levin walked up to the boy in the middle of the classroom, grabbed him under both armpits, picked him up, and carried him back to his seat. Levin had never lifted a child that heavy. He wondered, in a panic, if he could make it all the way to Quincy’s chair without dropping him. His strength gave（　B　）just as he got there. Instead of gently lowering the boy into his place, he dropped him into it, with more force than he had intended. *Mortified, Levin retreated to his desk and began to wonder exactly when he would be fired.

He had been told, more times than he could count, not to touch kids. It was a huge no-no, an invitation to lawsuits and a cause for dismissal. He worried about his job. He worried about Quincy. What did it say to a child who had probably been mistreated from an early age that a teacher could slam him into his chair?

But Levin noticed that the class quieted noticeably after Quincy had been

put (　C　) his place. The boy was a bully. (3)<u>Levin wondered if his failure to protect other children from Quincy had contributed to the sour mood that usually enveloped his class.</u>

NOTE

Levin decided to visit Quincy's parents and apologize, even though home visits were another thing he had been told not to do. The rule was that contact with parents had to be limited to the telephone and their visits to the school.

Levin didn't care. He felt bad about what he had done and could see no alternative to making a personal visit and apology. He found the small wood-frame house where Quincy lived, not far from the school. He knocked. Quincy's mother came to the door. She was heavyset, shorter than her sixth-grade son. She looked weary. "Good evening, ma'am," he said. "I am Mr. Levin, Quincy's teacher. May I come in?"

She looked (エ) to find him on her doorstep. She seemed apprehensive. Conversations with teachers about her son were rarely (オ). But she invited him in. Levin sat down on the couch and gave her an honest look of sadness.

"Ma'am," he said, "I feel really bad. Something came (D) today in class. I don't know if you know that your son has been slapping other kids."

"I know my boy," she said in a neutral tone.

"Well, today he wouldn't listen to me, so I had to carry him back to his chair."

She nodded.

"I hope you don't mind me doing that. I hope I don't have to do it again."

"Do whatever you have to do," she said. She saw the relief in his face. "Listen," she said, "you're the first teacher that ever came to the house. Do

whatever you have to do to my son. He doesn't listen to me. Do whatever you have to do."

NOTE

［From WORK HARD, BE NICE. by Jay Mathews. Reprinted by permission.］
（出題の都合上，原文の一部に変更を加えている。）

注
Ivy League：a group of elite US universities
mortified：very embarrassed and ashamed

設問
1.空欄（　ア　）～（　オ　）に入るもっとも適切な単語を次の1～5から選び，番号で答えよ。各番号は1回だけ使用すること。

1　sincere	2　pleasant	3　surprised	4　tense
5　vague			

2.空欄（　A　）～（　D　）に入るもっとも適切な単語を次の1～6から選び，番号で答えよ。各番号は1回だけ使用すること。

1　out	2　with	3　in	4　on
5　up	6　to		

3.Levinが「教師として，やってはいけない」と言われていた2つの事柄を，本文に即して日本語で述べよ。

4.下線部(1)～(3)を日本語に訳せ。

NOTE

大学別対策講座　名古屋大英語　復習テスト　第三回

＊下線部を日本語に訳しなさい。

１.The chaos in their classes demolished their assumptions that their energy would guarantee their success.

彼らのクラスの（　　　　）が，彼らのエネルギーによって成功が（　　　　）されるという（　　　　）を（　　　　　　）。

２.It occurred to them , in their weary conversations, that they were trying too hard to be what they thought teachers should be, and not trying hard enough to be themselves.

彼らの（　　　　　　）会話で，（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）という（　　　　　　　　　　）。

３.Levin wondered if his failure to protect other children from Quincy had contributed to the sour mood that enveloped his class.

レヴィンは（　　　　　　　　　　　　　），クラスを（　　　　　　　　　　）不快なムード（　　　　　　　）のかと疑問に思い始めた。

＊次の英語の意味を書きなさい。

4	mistreat		21	mortify	
5	noticeably		22	convince 人 that 〜	
6	contribute to		23	instinct	
7	envelope		24	disastrously	
8	weary		25	conflict	
9	rarely		26	wander	
10	nod		27	grab	
11	dismissal		28	gently	
12	slam		29	retreat	
13	bully		30	respond	
14	sour		31	insight	
15	alternative		32	lawsuit	
16	apprehensive		33	demolish	
17	neutral		34	assumption	
18	relief		35	anarchy	
19	harass		36	be impressed with	
20	armpit		37	tease	

38	slap		43	reign	
39	principal		44	mean	
40	disorder		45	taunt	
41	chaos		46	discipline	
42	guarantee		47	assign A to B	

第４講　　長文総合問題②

次の英文を読み，下記の設問に答えなさい。

Ontario Superior Court Justice Lucille Shaw released her long overdue decision this week in the case of a young woman pronounced dead in September, 2017, six months after closing arguments ended. Shaw concluded that the woman, 27, is in fact dead, rejecting (1)<u>arguments</u> presented by her family that she was alive and had the right to continuing mechanical life support.

Justice Shaw determined that this woman died last September when doctors determined her brain had irreversibly ceased to function. While the wait was painful for everyone, Justice Shaw's decision was clear: People need and deserve to know with simplicity, clarity and consistency when their family member is dead. (2)<u>At the heart of this ruling is the principle that identifying death has to be carried out in the same manner for all people in society, even if people choose to understand life in different ways.</u>

Why do we need a common definition of death, if we might have different ideas about the nature of life? (あ)______ cultures believe that the essence of life is in the air moving in and out of our lungs; others believe that our soul resides in our heart; and still others believe that we exist by (い)______ of our brain's ability to interact with the world.

If individuals can choose their own understanding of life, then why must they accept a common understanding of death? Justice Shaw answered this question clearly: With modern critical care, a line must be drawn (う)______ death is objectively determined.

NOTE

(3)

A. Almost all of our bodily functions can at some point be supported, and even replaced by medicines and technology.

B. Critical care has achieved increasing success in its mission to keep people alive.

C. For example, dialysis machines replace the key functions of our kidneys, while potent medications can keep fledgling hearts beating.

D. In fact, many people are living having received transplantation of these organs.

E. The nurses, doctors and caregivers who work in critical care units cherish life.

F. Whether by machine or transplantation, when these organs are replaced, bodily functions can continue indefinitely.

But at the core of this intensive support is the preservation of the brain. When brain death occurs, there is no blood and oxygen going to it. The brain ceases all function. There are no functions left to be lost. This means there is the irreversible loss of any ability to have thoughts or feelings or memories. There is the irreversible loss of brain-stem functions such as blinking, coughing, and breathing. (4)In this situation, to support or replace the functions of other vital organs, such as the lungs, would lead to a never-ending loop of biochemical reactions without purpose, and the pursuit of organ replacement activities only because they are possible to do.

NOTE

The tragedy is that the person, their identity and their agency will never return; but (え)______ a clear and uniform definition of death, we would be unable to ever say that they have died. (5)<u>It is the permanent loss of the person through the irreversible loss of all brain function that we collectively define as death, and determining this is well established in science.</u>

We know that we can donate organs after death, and the function of these organs persists in others' bodies. We know we can keep blood cells alive and other tissues functioning, well after a person has died. While we can say that a person's legacy or tissues "live on," (6)<u>this</u> is not to be confused with the recognition that the person has died.

None of us, family or caregivers, wants people to die. But all of us want to know when death has occurred. With the availability of modern critical care, brain death has become the ultimate definition of death (7)(allows, families, focus, grieving, that, their, to, to, turn). Many are more accepting of a stopped heart signifying death; this is congruent with this definition, as brain death will quickly follow cardiac death from a lack of circulating oxygenated blood.

The critical-care community is thankful for Justice Shaw's decision, because people deserve to know when death occurs. Death [ア] is [イ] certainty, and to remove [ウ] certainty of when [エ] occurs is simply [オ] perpetuate the avoidance of [カ] reality. Critical care advances have saved many lives, but we cannot tolerate the existence of technological care to prevent us (お)______ knowing when someone has died. Modern medicine requires that we understand its limits together.

[Why we need a clear definition of when death occurs by Sonny Dhanani, July 6, 2018, The Globe and Mail]（出題の都合上，原文の一部に変更を加えている。）

NOTE

設問

1.下線部(1)の内容を 40 ～ 50 字の日本語で分かりやすくまとめなさい。

2.下線部(2)を日本語に訳しなさい。

3.［(3)］の段落を構成する A ～ F の文を文脈にもっとも適した順に並べ替えなさい。解答は，選択肢(イ)～(ヘ)から選びなさい。

(イ) A ⇒ B ⇒ C ⇒ F ⇒ D ⇒ E　　(ロ) A ⇒ D ⇒ C ⇒ F ⇒ E ⇒ B

(ハ) B ⇒ C ⇒ D ⇒ E ⇒ A ⇒ F　　(ニ) B ⇒ E ⇒ A ⇒ C ⇒ D ⇒ F

(ホ) E ⇒ B ⇒ F ⇒ D ⇒ C ⇒ A　　(ヘ) E ⇒ F ⇒ D ⇒ C ⇒ A ⇒ B

4.下線部(4)の状況では，著者は何をしないほうが良いと考えているか，40 ～ 50 字の日本語で説明しなさい。ただし，「…しないほうが良い。」という形式で文を終えること。

５.下線部(5)を日本語に訳しなさい。

６.下線部(6)の内容を 25 ～ 35 字の日本語で分かりやすくまとめなさい。

７.(7)の括弧内の単語を文脈に合う正しい英文になるように並べ替えなさい。ただし，括弧内のすべての単語を一回ずつ使うこと

8．空欄［ア］〜［カ］に入るもっとも適切な単語を以下の(A)から(F)より選び，記号で答えなさい。各記号は一回のみ使用することができる。

(A) a　(B) it　(C) its　(D) itself　(E) the　(F) to

9．空欄(あ)〜(お)に入るもっとも適切な単語を以下の(A)から(J)より選び，記号で答えなさい。各記号は一回のみ使用することができる。ただし，本文中では大文字で始まる単語も，以下の選択肢ではすべて小文字で表記してある。

(A) against　(B) although　(C) from　(D) some　(E) order
(F) virtue　(G) where　(H) which　(I) with　(J) without

大学別対策講座　名古屋大英語　復習テスト　第四回

＊次の見出し語と合致する日本語を４つの選択肢から１つ選びなさい。

1. overdue
① ひく　② 克服する　③ 融通の利く　④ 期限切れの

2. irreversibly
① ありえないほど　② 不可逆的に　③ 辺境で　④ 不可避で

3. clarity
① 明快さ　② 高さ　③ 近さ　④ 豪華さ

4. consistency
① 利便性　② 一貫性　③ 攻撃性　④ 即効性

5. lung
① 腕　② 脚　③ 肺　④ 肘

6. potent
① 素早い　② 強力な　③ 遅い　④ 弱い

7. medication
① 道　② 炎　③ 地図　④ 薬

8. critical care
① 歯科診療　② 高齢者医療　③ 遠隔医療　④ 救命医療

9. mechanical life support
① 機能改善　② 疑心暗鬼　③ 救命胴衣　④ 生命維持装置

10. by virtue of
① 〜と敵対して　② 〜によって　③ 〜を経由して　④ 〜なしで

第５講　　長文総合問題③

次の英文を読んで，設問に答えなさい。

Television has often been accused of promoting obesity and aggression in the young. Now comes a report that television may actually restructure the developing brains of very young children, increasing the risk of so-called attention-deficit disorders.

Because television has been blamed for many other social ills, it is tempting to dismiss this new claim. That would be a pity. Parents should probably take this study by scientists at the Children's Hospital and Regional Medical Center in Seattle (ア) (　　　　　).

In the study, reported in the April issue of *Pediatrics*, the parents of 1,345 children were questioned about their children's viewing habits and then about their behavior at the age of seven. The children who had watched television the most were more likely to rank in the top 10 percent for concentration problems, impulsiveness, restlessness and confusion. The researchers said that (1) <u>each hour of television children watch per day up to the age of three raises by 10 percent the risk that they will have attention problems at age seven</u>.

Interestingly, the study did not consider the content of television programs, which has been the villain in inquiries into juvenile violence.

今日のポイント

NOTE

The act of viewing itself, they said, appeared to have certain neurological effects by either setting up particular habits of mind or depriving the brain of other experiences. The *rapid-fire stimulus of the medium itself sets up mental habits that may feed an inability to focus and concentrate later on. "In contrast to the way real life is experienced by young children, the pace of TV is greatly sped up," the lead researcher said.

Not (イ) (　　　　), their findings led the team to recommend that children under two should not be allowed to watch television at all and that their TV time should be restricted and monitored for several years after that.

There are two obvious but opposite responses to this. The first is skepticism. Everyone knows that parents are not going to turn off the set around their infants and toddlers. There are (2) <u>too many reasons not to</u> : sheer habit; television is the world's best baby sitter; much of the time parents are watching the shows themselves; and finally, the suspicion that the risk is being overstated.

Surely most of us experience difficulty in concentrating, as well as impulsiveness, restlessness and confusion, as people have done since long before the invention of television little more than half a century ago. Attention-deficit disorder could be described as the human condition. It can (ウ) (　　　　) be television's fault.

NOTE

(3) The second response, however, is to acknowledge there might be something to the idea that television could harm the young. As the team leader said, “We know from the studies of newborn rats that if you expose them to different levels of visual stimuli, the architecture of the brain looks very different.” It makes sense that if a child is overexposed to a certain kind of visual stimulus during the period when its brain is developing, it could be affected.

That is what the team’s research bore out. It did not deal with the debate about determining who has attention-deflcit disorder. It (エ) (　　　　　) said that some children were more restless, impulsive and inattentive than others, pointed to a link and offered a physiological explanation for it.

[Turn off the television The Japan Times, April 11, 2004.]

注

Pediatrics :『小児科学』(雑誌の名前)

rapid-fire : 速い　　　　　toddler : まだよちよち歩きの子供

設問

(1) 下線部(1)を日本語に訳しなさい。

(2) 下線部(2)の後ろに補う最も適切な英語表現を４語で書きなさい。

⑶ 下線部⑶の内容を 45 字以内の日本語で説明しなさい。句読点も 1 文字として数える。

⑷ 空欄㋐から㋓に，最も適切なものを以下の語から選んで書きなさい。

hardly	interestingly	merely
seriously	surely	surprisingly

NOTE

大学別対策講座　名古屋大英語　復習テスト　第五回

＊下線部を日本語に訳しなさい。

１.Television has often <u>been accused of promoting obesity and aggression</u> in the young.

テレビは若者の（　　　　　　　　　　）（　　　　　　　　　　　　　　）。

２　The <u>rapid-fire stimulus of the medium</u> itself sets up mental habits that may <u>feed</u> an inability to focus and concentrate later on.

（　　　　）そのものの（　　　　　　　　　）が，のちに集中できないことを（　　　　）心の習慣を作ってしまう。

３.<u>Attention deficit disorder</u> could <u>be described as</u> the human condition.

（　　　　　）は人間の状況と（　　　　）できる。

４.If you <u>expose</u> them to different levels of <u>visual stimuli</u>, the <u>architecture</u> of the brain looks very different.

もし彼らを違ったレベルの（　　　　　　　）に（　　　　　）なら，脳の（　　　　）は全然違ったように見える。

＊次の英語の意味を書きなさい。

5	expose A to B		24	rapid-fire	
6	suspicion		25	medium	
7	overstate		26	feed	
8	accuse A of B		27	in contrast to	
9	so-called		28	recommend	
10	deficit		29	restrict	
11	disorder		30	monitor	
12	tempting		31	obvious	
13	dismiss		32	sheer	
14	obesity		33	aggression	
15	restless		34	restructure	
16	confusion		35	describe A as B	
17	up to		36	acknowledge	
18	content		37	impulsiveness	
19	villain		38	architecture	
20	inquire		39	make sense	
21	juvenile		40	bear out	
22	neurological		41	inattentive	
23	stimulus				

NOTE

第６講　　長文総合問題④

次の英文を読み，下記の設問に答えなさい。
（＊の付いた単語は注を参照すること）

To get a sense of how completely revolutionary have been the changes of the last two hundred years or so, it helps to have a long view of demography. When in 47 BC Julius Caesar （　1　） appointed perpetual dictator of the Roman Republic his domain stretched from what （　2　） now called Spain to modern Greece, as far north as Normandy in France, and much of the rest of the Mediterranean, a region that today contains over thirty countries. The population of these vast lands comprised around 50 million people, which was about 20% of a world population of approximately 250 million. More than eighteen centuries later, when Queen Victoria ascended the British throne in 1837, the number of people living on earth （　3　） grown to something like 1,000 million, a fourfold increase. Yet less than two hundred years after Victoria's coronation, world population has increased a further seven times — nearly twice the growth in a tenth of the time. (あ)This latter multiplication is astonishingly rapid, and （　4　） had a transformative global impact.

Between 1840 and 1857 Queen Victoria gave birth to nine children, all of whom survived into adulthood. Britain's previous female monarch, Queen Anne, had died in 1714, aged forty-nine. She had eighteen pregnancies but her tragedy was that not a single child survived her. By 1930, just twenty-nine years after the death of Queen Victoria, another great British matriarch, the Queen Mother*, had produced only two children, Elizabeth (the present queen) and Margaret. These facts about three queens — Anne, Victoria and Elizabeth

the Queen Mother — neatly represent the two trends that began in Britain between the eighteenth and twentieth centuries and which have subsequently spread across the world.

NOTE

The first was a precipitous drop in infant mortality, with the death of a child becoming mercifully irregular rather than a common agony for parents. The second, which followed, was a dramatic reduction in the average number of children born per woman. In Queen Anne's time, losing child after child was common. In mid-Victorian Britain, having a large brood was still the norm. Its complete survival into adulthood was unusual (in this, Victoria had luck as well as wealth in her favour) but would shortly become usual. By the interwar years of the twentieth century, the Queen Mother's expectation that both her daughters would survive into adulthood was quite normal, in Britain at least.

When Queen Victoria was born in 1819, only a small number of Europeans — around 30,000 — were living in Australia. The number of indigenous Australians at that time is uncertain, but estimates range from between 300,000 to 1 million. When Victoria died at the start of the twentieth century, there were fewer than 100,000, while Australians of European origin numbered nearly 4 million, more than a hundred times as many as eighty years earlier. This transformation in the size and composition of a continental population occurred in the space of a single lifetime. It changed Australia completely and forever, and would have a significant impact beyond Australia's shores, as the country came to play a major role in provisioning and manning British efforts in both world wars. (い) A similar story can be told of Canada and New Zealand.

NOTE

These startling facts — (う)the rapid but selective acceleration of population growth; plummeting infant mortality rates; falls in fertility; the nineteenth-century outpouring of European populations to lands beyond Europe — are all connected. They are born of the same profound social changes that accompanied the industrial revolution and have proved to be a formidable influence on the course of history, empowering some countries and communities at the expense of others, determining the fate of economies and empires, and laying the foundations of today's world.

［Republished with permission of Hachette Books Group, from The Human Tide : How Population Shaped the Modern World, Paul Morland © 2019 ; permission conveyed through Copyright Clearance Center, Inc.］（出題の都合上，原文の一部に変更を加えている。）

注　the Queen Mother　皇太后

NOTE

設問

１.（　１　）～（　４　）に入るもっとも適切な語を選択肢から選び，記号で答えなさい。各記号は１回のみ使用すること。

(A) are　(B) be　(C) been　(D) being
(E) had　(F) has　(G) have　(H) having
(I) is　(J) was　(K) were

２.下線部(あ)の内容を 40 字以内の日本語で具体的に説明しなさい。数字や記号を記入する場合は，ひとつにつき１マスを使用すること。

３.下線部(い)は，カナダとニュージーランドで何が起こったと示唆しているのか，日本語で答えなさい。

４.下線部(う)を日本語に訳しなさい。

５.本文の最後に続き得るもっとも適切なトピックを以下からひとつ選びなさい。

(A) information technology in the 20th century
(B) economic changes in the 1960s
(C) changes of government during the 19th century
(D) demographic changes after 1945
(E) population changes during the Roman Empire

６.本文に照らして，以下から正しい文を２つ選び，記号で答えなさい。

(A) About one fifth of the world population resided in the Roman Republic in 47 BC.
(B) Elizabeth the Queen Mother had just one sister and no brother.
(C) In Britain, infant mortality decreased sharply during the Victorian Age.
(D) None of Queen Anne's children survived past the age of one.
(E) The population of Australia decreased and then increased within the last 200 years.
(F) The rapid growth of population in Britain was a cause of the industrial revolution.

大学別対策講座　名古屋大英語　復習テスト　第六回

＊次の見出し語と合致する日本語を４つの選択肢から１つ選びなさい。

1. demography
① 地理学　② 地質学　③ 人口統計学　④ 力学

2. perpetual
① 立派な　② 反対の　③ 透明の　④ 永久の

3. domain
① 国家　② 領域　③ 遠隔　④ 海抜

4. comprise
① ～から成る　② ～に起因する　③ ～を回避する　④ ～を出発する

5. multiplication
① 引き算　② 掛け算　③ 割り算　④ 足し算

6. monarch
① 部下　② 兄弟　③ 親族　④ 君主

7. pregnancy
① 妊娠　② 離婚　③ 手術　④ 結婚

8. subsequently
① ゆっくりと　② のちに　③ 事前に　④ 急に

9. give birth to
① ～を禁止する　② ～を支配する
③ ～を廃止する　④ ～を産む

10. at the expense of
① ～を代表して　② ～を犠牲にして
③ ～を支配して　④ ～を考慮して

第７講　　会話問題演習

次の英文の空欄について，⑷，⑻，⒂は①～④の中から適切なものを１つ選び，⑽～⒁は適切な語句を考えて入れなさい。他の問いは与えられた文字で始まる最も適切な１語を入れなさい。

⑴

A : Please drop me a（l　　　　　）.

B : I will.

⑵

A : Is this the pen you were looking for?

B : Not really, but it'll（d　　　　　）.

⑶

A : Thank you very much for your help.

B : My（p　　　　　）.

⑷

A : I can't believe I ran out of ink. Thanks for lending me your pen.

B :（　　）I had a spare one in my pencil case.

① Good luck.　　② Yes, please.

③ Don't mention it.　　④ Don't do it again.

⑸

A : I'm sorry to have punished you in this fashion, but you（a　　　　　）for it.

B : Maybe so, but I don't think I deserved such a severe punishment.

⑹

A : I don't feel like studying English anymore.

B : How（c　　　　　）?

NOTE

(7)

A : I'm exhausted. I've been working so hard since this morning.

B : Me, too. Let's call it a (d　　　　　).

(8)

The teacher said, "So much (　　) today."

① as　　　② for　　　③ in　　　④ with

(9)

She knew (w　　　　　) it was like for married women to look after houses, husbands and children.

(10)

Jennifer: Hi, Dennis. I haven't seen you around for a (　　　　　). What have you been up to?

Dennis: Not much.

(11)

Bill: Well, it's pouring out there. Do you mind if I sit here for a while till the rain lets up?

Lisa: (　　　　　) (　　　　　) all. If you want, you can have some of this chocolate cake. It's a big piece.

(12)

Steve: I've just bought a new cell phone and it's fantastic! You won't believe all features it has.

Bill: Really? Like (　　　　　)?

Steve: Well, it can send text messages, take photographs. . . .

(13)

In some areas of space exploration, such as X-ray and radio astronomy, space plasma and solar physics, Japan is considered (　　　　　) to none.

⒁

A : Oh. Well, those birthday wishes don't count, unless you have cake.

B : They don't?

A : No. A lot of times they don't even count when you do have a cake. It just depends.

B : (　　　　　) (　　　　　) what?

A : On how strong your wish is, I suppose.

⒂

Michael: What is the selection process based on generally?

Ms. Austin: (　　) Most of the scholarships take into account the applicant's financial situation; others look mainly at your high school grades.

① Is the information available?　② It depends.

③ My reasons are clear.　④ What can I do for you?

NOTE

大学別対策講座　名古屋大英語　復習テスト　第七回

＊次の空欄に入る日本語，英語を書きなさい。

1	drop O a line	
2	自動詞の do	
3	どういたしまして×２	
4	当然の報いだ×２	
5	なんで？×２（why 以外）	
6	今日はこれまで×２	
7	S がどんなものか	
8	久しぶり×３	
9	Do you mind? の答え方（承諾）	
10	例えばどんな？	
11	誰にも劣らない	
12	一概には言えない	

NOTE

第８講　　和文英訳演習①

下線部を英訳しなさい。

前略

お手紙ありがとうございました。お元気でお過ごしとのこと，何よりです。(1)時がたつのは早いもので，イタリアに留学して３年になります。

(2)長く外国にいればいるほど，故郷からの便りがますます大切になってきます。

(3)文学を学べば学ぶほど，詩をただの感情表現のようにとらえるのはますます難しくなっていく。

日本語を教えている小学校が米国・シカゴ市内にある。

(4)日本語教育を始めたのは，勉強への興味を持たせるためだそうだ。

(5)子どもが自室に閉じこもるのは，親から独立した自分だけの精神的世界を持ち始めたことの表れだろうから，悪いとばかりは言えない。

NOTE

人類は，自然現象や神秘性の解明に精を出し，科学技術によって自然を都合のいいように変える欲望に取りつかれている。(6)<u>科学技術の発展へのそのような欲望が自然環境を破壊してきた。</u>

(7)<u>近年，コンピュータや携帯電話など，先端技術によって生まれた製品が私たちの生活をより快適にしてきたことは確かである。</u>

(8)<u>薬を飲めば６カ月から８カ月で結核は治せる。</u>
＊結核：tuberculosis

(9)<u>その映画がきっかけで将来のことを考え始めた。</u>

(10)<u>その経験のおかげで，もっと大きな役をもらったんです。</u>

NOTE

大学別対策講座　名古屋大英語　復習テスト　第八回

＊次の空欄に入る英語を書きなさい。

1	S が V してから何年たつ	
2	時がたつのは早い	
3	～すればするほど，ますます～	
4	A を B ととらえる	
5	感情表現	
6	S が V したのは～だ	
7	自室に閉じこもる	
8	独立する	
9	精神的世界	
10	科学技術	
11	欲望	
12	自然環境	
13	破壊する	
14	そのような	
15	近年	
16	携帯電話	
17	先端技術	
18	製品	
19	快適な	
20	結核	
21	S のおかげで O は C する	

NOTE

第９講　　和文英訳演習②

(1)ほかの子どもたちと遊ぶよりも一人で読書をすることのほうが好きだった少女が，今ではサッカー日本代表チーム（Japan's national football team）で活躍している。

「21 世紀は国際化の時代だから，日本人はもっと国際感覚を養うべきだ」。こんな文章，あるいはお題目に接したとき，皆さんはどのような反応を示しますか。こういう発言に対して，「(2)いまだにそんな発言する人は，時代遅れである」と批判する者もいます。

(3)特に 20 世紀後半になり，企業が私達の生活にさほど必要ではないものまで生産するようになると，この傾向はより顕著になった。

(4)川原に行こう，と思いついた本当の理由は，実のところ自分でもわからない。

(5)沖縄には花火大会はない，と何かで読んだことがある。

NOTE

(6)農村と都市との交流が盛んになってきているのはよろこばしい。

(7)一般的に，アジアは文化的遺産に恵まれているとされます。

(8)東京の小学生で犬と豚の区別がつかない子がいる，という話を新聞で読んだとある人から聞いて，いろいろと考えさせられた。

(9)昨今，いたるところにマニュアル，手引書の類が氾濫している。一方では，あれをしろ，これをしろと指示されなければ何もしない，何をしていいかわからない，という若者が増えている。

(10)日本語を上手にしゃべる外国人がずいぶん増えてきた。外国語を話すのが苦手な日本人としてはありがたいことだ。

NOTE

大学別対策講座　名古屋大英語　復習テスト　第九回

＊次の空欄に入る英語を書きなさい。

1	B より A が好き	
2	活躍する	
3	発言をする	
4	〜する人々	
5	時代遅れ	
6	〜世紀後半	
7	企業	
8	〜なもの	
9	傾向	
10	顕著な	
11	実のところ	
12	川原	
13	〜がある・ない	
14	花火大会	
15	農村	
16	都市	
17	交流	
18	一般的に	
19	文化的遺産	
20	小学生	
21	A と B の区別をつける	
22	昨今	
23	氾濫している	
24	一方では	
25	S が増えている	

NOTE

第 10 講　長文総合問題⑤

次の英文を読み，下記の設問に答えなさい。
（＊の付いた語は注を参照すること）

The Royal Society, the United Kingdom's academy of sciences, was founded in 1660. At its earliest meetings, scientists shared travellers' tales, peered through newly invented microscopes, and experimented with airpumps, explosions and poisons. Its earliest fellows included the polymaths Christopher Wren and Robert Hooke, [ア] enthusiastic amateurs such as the prolific diarist Samuel Pepys. Sometimes gatherings turned gruesome: Pepys recorded the event of a blood transfusion from a sheep to a man — who, amazingly, survived. Health and safety rules render Royal Society meetings somewhat duller these days, but (1)<u>the guiding spirit</u> remains. Right from the start, the Society recognised that science was international and multidisciplinary.

Science and technology, of course, hugely expanded over the following centuries. [　お　], the Royal Society's present-day fellows are specialised professionals. This fact aggravates the barrier between science and the public, as well as between different specialisms. (2)<u>As a physical scientist, most of my own all-too-limited knowledge of modern biology comes from 'popular' books on the subject.</u>

NOTE

The sharp demarcation between scientists and humanities scholars would have perplexed intellectuals [イ] Wren, Hooke and Pepys. In 1959 the novelist, critic and chemist C. P. Snow bemoaned this divide in his iconic lecture on the 'Two Cultures', presented at the University of Cambridge. There was (and still is) much truth in his analysis; we are all too narrow in our cultural reach. However, Snow presented the dichotomy too starkly — a consequence, perhaps, of the social milieu in which he moved. He felt an affinity with scientists and engineers who had been part of the war effort in the Second World War, and retained a robust sense of optimism about the role of science in human betterment. That generation had 'the future in their bones', he said, and roamed what he elsewhere called the 'corridors of power'. They influenced, among others, the UK's prime minister Harold Wilson, who extolled 'the white heat of this technological revolution in a celebrated speech at the 1963 Labour Party conference. [　か　], the humanities scholars whom Snow knew best — and who typified, for him, the literary culture of the 1950s — had been intellectually straitjacketed by schooling with a strong focus on Classical languages, often followed by three years in the narrow social world of Oxford or Cambridge.

NOTE

The issues that concerned Snow loom only larger today. Societies are increasingly dependent on advanced technology; science pervades our lives more than ever. But the glad optimism about science has faded. In many quarters, observers view the impact of new breakthroughs with more ambivalence [ウ] excitement. Since Snow's time, our 'marvellous' new technologies have created fresh hazards and raised new ethical quandaries. Many commentators are anxious that science is getting out of hand, such that neither politicians nor the public can assimilate or cope with it. The stakes are higher now too: science offers huge opportunities, but future generations will be vulnerable [エ] risks — nuclear, genetic, algorithmic — powerful enough to jeopardise the very survival of our civilisation.

In a later publication based on his original lecture, Snow suggested that there was a 'third culture', one embracing the social sciences. Today it might be truer to say that the very idea of 'culture' has many interweaving strands. Nonetheless, intellectual narrowness and ignorance remain endemic, and science is a closed book to a worrying number of people in politics and the media. But just as many people are ignorant of the history and literature of their own nation. Scientists don't have a special reason to moan; in fact, (3) <u>it's really quite remarkable how many people are interested in subjects as blazingly irrelevant to practical life as dinosaurs, the Higgs boson* and cosmology</u>. There is a surprising and gratifying interest in fundamental big questions — such as the origins of consciousness, of life, and of the cosmos itself.

NOTE

Charles Darwin's ideas, [　き　], have been culturally and philosophically resonant ever since they were first unveiled in 1859. Indeed, they've never provoked more vibrant debates than they do today. Darwin was perhaps the last scientist who could present his research in a way accessible to general readers; (4) today, it's hard to present original findings without a forbidding array of equations, or a specialised vocabulary. 'On the Origin of Species', which he described as 'one long argument' underpinning his theory, ranks highly as a work of literature. (5) It changed our perception of human beings by revealing that we were an outcome of a grand evolutionary process that can be traced back to the beginning of life on Earth.

[This is an excerpt from an article originally published on Aeon (aeon.co)]（出題の都合上，原文の一部に変更を加えている。）

注　the Higgs boson　ヒッグズ粒子

NOTE

設問

1.［ア］～［エ］に入るもっとも適切な表現を選び，記号で答えなさい。各記号は1回のみ使用できるものとする。

(A) along with　(B) between　(C) either
(D) from　(E) such as　(F) than
(G) to　(H) within

2.［　お　］～［　き　］に入るもっとも適切な表現を選び,記号で答えなさい。各記号は1回のみ使用できるものとする。文頭に入る場合も小文字で表記してある。

(A) as a result　(B) for example　(C) in addition
(D) in conclusion　(E) in contrast　(F) secondly
(G) to my surprise

3.下線部(1)の “the guiding spirit” の内容を表すもっとも適切な文を以下から1つ選び，記号で答えなさい。

(A) The Royal Society accepts scientists, but not humanities scholars.
(B) The Royal Society conducts even gruesome experiments by obeying health and safety rules.
(C) The Royal Society gathers information from around the world and covers a variety of disciplines.
(D) The Royal Society sends its fellows to various parts of the world to make a world map.

４.下線部⑵はどういった状況の例として述べたものか。60字以内の日本語で説明しなさい。

５.下線部⑶を日本語に訳しなさい。

６.下線部⑷の内容を，チャールズ・ダーウィンの時代と対比して，70字以内の日本語で説明しなさい。

7.下線部(5)を日本語に訳しなさい。

大学別対策講座　名古屋大英語　復習テスト　第十回

＊次の見出し語と合致する日本語を４つの選択肢から１つ選びなさい。

1. peer

① のぞく　② 守る　③ 入る　④ 盗む

2. enthusiastic

① 反抗的な　② 立派な　③ 好意的な　④ 熱狂的な

3. transfusion

① 輸出　② 輸送　③ 輸入　④ 輸血

4. provoke

① 爆発する　② 叩く　③ 戦う　④ 引き起こす

5. aggravate

① 悪化させる　② 改善する　③ 批判する　④ 遠慮する

6. demarcation

① 回避　② 抑圧　③ 区別　④ 結合

7. perplex

① 喜ばせる　② 困惑させる　③ 存続させる　④ 満足させる

8. affinity

① 愛国心　② 敵対心　③ 友情　④ 親近感

9. be traced back to

① ～から帰還する　② ～にさかのぼる

③ ～に向けて出発する　④ ～に返信する

10. technological revolution

① 言語道断　② 延命措置

③ 日進月歩　④ 技術革新

大学別対策講座　名古屋大英語　解答編

本講座では，解答編もただ答えを載せるものではなく，徹底して受講生の復習を意識した構成にしました。

読解編では，各講の最後に，重要語彙リスト，音読用の白文を掲載しました。必ず授業後に，①全文構文把握　⇒　②単語・熟語の暗記　⇒　③本文音読10回を繰り返してください。音読用白文の表題の所に，①～⑩までの数字を明記してますので，１回音読するごとに，番号を消して，必ず一つの文を10回音読してください。音読こそが，速読，語彙の定着など，すべての道を切り開いてくれます。

会話・作文編では，何を覚えるかを明らかにしたInput Sheetを７～９講の終わりに掲載しました。何度も繰り返して，自分で知識を使える状態に仕上げてください。

復習こそが，英語学習で最も重要なポイントです。授業を聞いてわかったという状態から，自分でできるという状態こそゴール地点だと，改めて確認してください。全構分終えたあとの充実感，英語の力の圧倒的向上を楽しみに，頑張って下さい。

肘井　学

※掲載内容について

本書に収録された解答・解説はスタディサプリが独自に作成したものです。

名古屋大英語　第１講　解答

<解答・全訳>

１．想像の荒野を目的もなくぶらつくことで，我々は探そうとしていたら見つけられない可能性のあるアイデアや連想に偶然出会うかもしれない。

２．その計画の目標は，人間が作り上げ，そのせいで我々が人間以外の動物を感情を持つ生き物としてではなく，物として扱ってしまう障壁を壊すことだ。

３．ネパールの人々は，他の要因がその犯罪の原因かもしれないといまだに疑問に思っている可能性がある。

４．なぜそうでなければあまりにありふれた侮辱が異常なものになったかは，その手紙にサインをしたその部署のリーダーもまた女性だったということだ。

５．それ以来，五年ごとに見直されてきたので，これらの目標によって，数年に渡って，水質が目を見張るほど改善されてきた。

６．スパルタ軍が現地に着いたのは一日遅れてであり，その遅れは，満月に終わる重要な宗教上の祭典のせいであった。

７．この二位の位置づけは，地元の日本人の比較的低い出生率や日本からの移民があまりいないことを考えると，少し驚きである。

８．その問題の深刻さ次第で, 親は子供たちがそれを解けるという自信を表して, 部屋を出ていくかもしれない。

９．彼は日本の詩に関する講義を行ったが，それは私をとても感激させたので, 後に興奮で目を見開いて, 友人にほぼ一語一語繰り返すことができたほどだった。

10．それぞれの子供が個々に評価されるべきで，必ずしも同等にしなくてもいいが，まるで彼が唯一の子供であるかのように褒められるべきだ。

11. 新しい世代の科学者たちは，鳥を含んだ生き物が洞察力で問題を解決できるし，例えによって学ぶことさえできるし，人間の子供たちがやるのと同様だと信じている。

12. 私は自分自身が熱心なカエルであったかもしれないし，日本は，そのまだ発見されていない言語，文学，伝統の豊かさを持って，私が飛び込むのをちょうど待っている古池であったかもしれない。

13. 私は，シリアルやミルクの代わりに朝食に魚やコメを食べたくないのと同様に，日本文学を試してみたいとは全然思わなかった。

第１講　重要語彙リスト

1	aimless	目的のない
2	association	連想
3	strive to do	～しようとする
4	barrier	障壁
5	be responsible for	～の原因だ
6	offense	侮辱
7	department	部署
8	head	（部署・グループなどの）長
9	revise	改訂する
10	scene	現場
11	delay	遅らせる
12	religious	宗教の
13	given	～を考慮すると
14	relatively	比較的
15	birthrate	出生率
16	immigration	移民
17	depend on	～次第だ
18	severity	深刻さ
19	confidence	自信
20	poetry	詩
21	inspire	奮い立たせる
22	excitement	興奮
23	appreciate	評価する
24	equally	同等に
25	praise	褒める
26	primary	主要な
27	concern	関心
28	insight	洞察力
29	instead of	～の代わりに

第１講　音読用白文　①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨　⑩

1. Aimless rambling across the moors of our imaginings / may lead us to stumble on ideas and associations / that we may never find / if we strive to seek them.

2. The goal of the project is to break down the barriers / that humans have built / which allow us to treat non-human animals / as objects and not as creatures with feelings.

3. People in Nepal might still be wondering if other causes / might be responsible for the crime.

4. What made this otherwise all-too-common offense unusual / was the department head who signed the letter / was also a woman.

5. Revised every five years since, / these targets have produced notable improvements in water quality over the years.

6. The Spartan army arrived on the scene one day late, / delayed by an important religious festival / that ended in a full moon.

7. This second ranking is a little surprising / given the relatively lower birthrate among local Japanese / and the lack of significant immigration from Japan.

8. Depending on the severity of the problem, / a parent might then express confidence that the kids can solve it / and then leave the room.

9. He delivered a lecture on Japanese poetry / which so inspired me that later, wide-eyed with excitement, / I was able to repeat it almost word for word to a friend.

10. Each child should be appreciated individually — / though not necessarily equally — / and should be praised as if he were an only child.

11. A new generation of scientists believe / that creatures, including birds, can solve problems by insight / and even learn by example, as human children do.

12. I myself might have been the eager frog, / and Japan, with all its undiscovered riches of language, literature, and tradition, / the ancient pond just waiting for me to dive in.

13. I had no more desire to sample the literature of Japan / than I had to eat fish and rice for breakfast / instead of cereal and milk.

名古屋大英語　第２講　解答

＜解答・全訳＞

１．物理学者が「理論」という言葉で意味しているものが可能になるのは，その数学的側面のおかげだ。

２．その手紙を読む可能性があるのは，あなたが手紙を書く人だけではないと覚えておきなさい。

３．1800 年頃に産業革命が始まってはじめて，人間の成長や環境への影響が爆発し始めた。

４．その機械が，その大陸でゆっくりと使われるようになった原因は，安いフランスの労働力であって，イギリスの優れた科学の創造性ではなかった。

５．我々が科学技術に依存するようになるのを心配して，その有望さを疑い，それが我々に作る未来を恐れるのは，もしかすると科学技術が我々の生活をとても豊かにしているからかもしれない。

６．心配性の人々なら，科学が我々の準備できない速さで飛躍的に進むと信じさせようとするだろう。

７. 我々は，言葉で完全に表せる以上に，モノや出来事や人間について多くを知っている。あなたがなじみのある友人の顔について知っているすべてを言うのが難しいことを考えてみなさい。実は，あなたが最大限努力しても，たぶん他の誰かが大きな群衆の中で友人を選び出せるほどの十分な情報を伝えられないだろう。

８．もし人間の置かれている状況が，いつも戦争と結びついてきたのなら，これを変えようとする見込みに悲観主義になったり，重装備の武装した国民国家に投資をしたりするのは，合理的な選択であろう。もし人間の性質が究極的には平和なものなら，楽観的になったり，あらゆる紛争は最後には暴力を用いず解決できると信じることや，交渉や協定にささげられた国際秩序のために働くことはより

理にかなうものだ。

９．こうした非建設的な考え方の一つに，個人的な迷信，例えば成功する可能性について話をすると，成功しなくなると信じ込むようなものに固執するものがあった。

10. 我々の表面積は大きな体のサイズの割にとても小さいので，体重に作用する重力に支配されている。しかし，重力は，体重に対する表面積の割合が高いごく小さな動物にはほぼ意味をなさない。それらは表面に働く力の世界で生活しているので我々が経験したことのない方法で，その環境の快適さや危険性を判断している。

11. 医療の性質や機能は，過去の一世紀の間に徐々に変わってきた。かつては病人の世話をするのに向けられた主にコミュニケーション中心の活動であったものが，病人をさらに上手く治療できる技術的な事業となっている。

12. 地球規模で，届けられる真の数の観点からは，他のコミュニケーションの形態は，新聞，放送，雑誌，広告によって伝えられる言葉や画像と競い合うことはできない。例えば，女性がマスメディアで取り上げられる方法は，女性の立場の現状や，その理想に関する人々の考えに強く影響を与える。

第２講　重要語彙リスト

1	aspect	側面	21	rational	合理的な
2	physicist	物理学者	22	ultimately	最終的に（究極的に）
3	dawn	始まり			
4	explode	爆発する	23	optimistic	楽観主義の
5	account for	説明する	24	dispute	議論
6	adoption	採用	25	resolve	解決する
7	continent	大陸	26	order	秩序
8	superior	優れた	27	dedicate	捧げる
9	ingenuity	創造性	28	negotiation	交渉
10	enrich	豊かにする	29	hold to	固執する
11	dependent	依存した	30	superstition	迷信
12	alarmist	心配性の人	31	gravity	重力
13	proceed	進行する	32	next to	ほぼ
14	in leaps and bounds	飛躍的に（大躍進で）	33	ratio	割合
15	convey	伝える	34	foreign	なじみのない
16	single out	選び出す	35	aimed at	～に向けられた
17	warfare	戦争	36	enterprise	事業
18	pessimism	悲観主義	37	in terms of	～の観点で
19	prospect	見込み	38	sheer	真の
20	investment	投資	39	compete	競争する

第２講　音読用白文	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

１. It is the mathematical aspect / that makes possible what physicists mean by the word ‘theory’.

２. Remember, it is not only the person you are writing to / who may read the letter.

３. It wasn't until the dawn of the Industrial Revolution around 1800 / that human growth and its impact on the environment began to explode.

４. It was cheap French labor that accounted for the machine's slow adoption on the continent, / not the superior scientific ingenuity of the British.

５. It is perhaps because our lives are so enriched by technology / that we worry about becoming dependent upon it, / doubt its promises and fear the future it might create for us.

６. The alarmists would have us believe / that science proceeds in huge leaps and bounds for which we are not prepared.

７. We know more about objects, events and people / than we are ever fully able to express in words. Consider the difficulty of saying all you know / about the familiar face of a friend. The fact is / that your best effort would probably fail to convey enough information / to enable someone else to single out your friend in a large crowd.

８. If the human condition has always been bound by warfare, / then a pessimism about the prospect of changing this / and an investment in a heavily armed nation state / would be the rational choice. If human nature is ultimately peaceable, / then it makes more sense to be optimistic, / to believe all disputes can eventually be resolved nonviolently, / and to work for an

international order dedicated to negotiation and agreement.

9. Among these non-constructive ways of thinking / was holding to private superstitions, such as believing / that talking about potential success would keep it from happening.

10. Since our surface area is so small at our large size, / we are ruled by the forces of gravity acting upon our weight. But gravity means next to nothing to very small animals / with high surface-to-volume ratios; / they live in a world of surface forces / and judge the pleasures and dangers of their surroundings in ways foreign to our experience.

11. The nature and function of medicine has gradually changed over the past century. What was once a largely communicative activity aimed at looking after the sick / has become a technical enterprise able to treat them with increasing success.

12. On a global basis, in terms of sheer numbers reached, / other forms of communication cannot compete with the words and pictures / carried in newspapers, broadcasts, magazines, and advertising. For example, / the ways women are presented in the mass media / strongly affect people's notions on woman's place, / as it is and as it ought to be.

名古屋大英語　第３講　解答

＜解答＞
設問１．ア—５　イ—１　ウ—４　エ—３　オ—２
設問２．Ａ—６　Ｂ—１　Ｃ—３　Ｄ—５
設問３．事柄１：生徒の体に触れること。事柄２：生徒宅を訪問すること。
設問４．全訳の下線部を参照。

＜全訳＞
　クラスの混乱ぶりが，自分たちの魅力と知性，エネルギーが自分たちの成功を保証してくれるだろうというレヴィン先生とファインバーグ先生の思い込みを打ち砕いた。無秩序が支配していた。子どもたちは廊下を走り回っていた。ほとんどが宿題をしてこなかった。騒がしいのはいつものことであった。生徒たちは新任教師の一流の学歴や賢い話に感動はしなかった。

　例えばクインシーという生徒がバスティアン小学校のレヴィンのクラスにいた。彼は６年生だったが，そうは見えなかった。身長は５フィート10インチもあり，よく怒ったり意地悪なことをしたりした。彼はほかの子どもたちをいじめて，あざけり，ひっぱたいたりした。彼は止めるように言ってくる教師に全く注意を向けなかった。(1)子どもをしつけた経験などほとんどないレヴィンが何を要求しようと，そうする理由など彼にはなかったのである。

　レヴィンは校長や彼の担当である指導教師にアドバイスを求めた。彼らが言ったことのほとんどは曖昧だったり役に立たないものであったりした。学校全体の混乱によって，彼が確信したのは，校長は善良な心の持ち主で事態を改善したいと誠実に願ってはいるけれども，クインシーに対してはあまり役に立たないだろうということだった。

　疲れきった会話の中でレヴィンとファインバーグが考えたのは，(2)彼らは，自分達の理想の教師像になるのに一生懸命になりすぎて，自分らしくしようとする姿勢が足りなかったのではないか，ということだった。彼らは人生のほかの場面においてはするどい直観力を持っていた。なぜ授業ではうまくいかないのか？
特に緊張の走るある日のこと，それが教師の行動に対する規則，そして法律にも抵触するかもしれないと考えずに，レヴィンはこの洞察に対して悲惨にも反応をしてしまった。いつものように，クインシーは教室を歩き回ってはほかの生徒に

悪さをしていた。「クインシー，席に着きなさい」とレヴィンは言った。クインシーはまるでレヴィンがいないかのように振る舞った。

「今すぐ着席しなさい」

反応はなかった。

レヴィンは教室の中央にいるその少年のところまで歩いていくと，両脇の下をつかみ，彼を持ち上げて席まで運んでいった。レヴィンはそんなに重い子どもを持ち上げたことがなかった。クインシーを落とさずに彼の席までたどり着くことができるかと，彼はパニックになって考えていた。そこに着くと同時に彼は力が抜けた。席にそっと降ろすのではなく，意図した以上の力で彼はその少年を席に落としてしまった。気が動転してレヴィンは自分の机に戻ると，自分はいつ首になるのかと考え始めたのであった。

彼は数えきれないほど何度も，子どもに触れないように言われていた。それは絶対にダメなことであり，訴訟につながり解雇の原因にもなることであった。彼は職を失うことについて心配した。クインシーのことも心配になった。おそらくは幼年期から虐待を受けてきた子どもにとって，教師に椅子に叩きつけられるということは何を意味しただろうか？

しかし，クインシーが席に戻されてからクラスが著しく静かになったことにレヴィンは気づいた。その少年はいじめっ子だった。(3)自分がほかの子どもたちをクインシーから守ってやれなかったせいで，普段から自分の受け持つクラスを険悪なムードが包んでいたのかもしれないと，レヴィンは思った。

レヴィンはクインシーの両親を訪ねて謝罪しようと決心した，もっとも，家庭訪問もまた彼がしないように言われていたもう一つのことではあったが。親たちとの接触は，電話や彼らが学校に来る場合に限られるという規則だった。

レヴィンは気にしなかった。彼は自分のやったことに罪悪感を感じ，個人的に訪問し謝罪する以外の方法はないと思ったのである。彼は学校から遠くないところに，クインシーが住んでいた小さな木造の家を見つけた。彼はノックした。クインシーの母親が戸口に現れた。彼女はがっしりした体型で，6年生の息子より背が低かった。彼女は疲れているように見えた。「こんばんは，お母さん」と彼は言った。「クインシー君の担任のレヴィンと申します。お邪魔してもよろしいでしょうか？」

彼女は玄関口に立った彼を見て驚いたように見えた。不安そうに見えた。息子について教師と話すことはめったに楽しいものにはならないのだ。しかし，彼女は彼を招き入れた。レヴィンはソファに座って，彼女に誠実な悲しみの表情を見

せた。「お母さん」と彼は言った。「本当に心苦しく思います。今日クラスでちょっとしたことが起きました。息子さんがほかの子どもたちを叩いたりしているということをご存じでしょうか」

「息子のことはわかっております」と彼女は淡々とした口調で答えた。

「ええと，今日，彼が私の言うことを聞こうとしなかったから，私は彼を抱えて席まで戻さなければなりませんでした」

彼女はうなずいた。

「私のしたことがお気に障らなければよいのですが。もう二度とこのようなことをしなくてもよいことを私も願っております」

「必要なことは何でもしてください」と彼女は言った。彼女は彼の顔に安堵の表情を見てとった。「ねえ，先生」と彼女は言った。「あなたは家まで来て下さった初めての先生です。息子にしなければならないことは何でもやってください。彼は私の言うことは聞きません。必要なことは何でもしてやってください」

第３講　重要語彙リスト

1	chaos	混乱	17	occur to 人	考えが人の頭に浮かぶ
2	demolish	破壊する	18	weary	疲れている
3	assumption	思い込み	19	instinct	本能
4	guarantee	保証する	20	respond	反応する
5	anarchy	無秩序	21	disastrously	破滅的に
6	reign	統治する	22	insight	洞察
7	be impressed with	～に感銘を受け	23	conflict	衝突する
8	mean	意地の悪い	24	wander	さまよう
9	tease	いじめる	25	harass	困らせる
10	taunt	あざける	26	grab	つかむ
11	slap	たたく	27	armpit	脇の下
12	discipline	しつける	28	gently	優しく
13	principal	校長	29	retreat	退却する
14	assign A to B	AをBに割り当てる	30	lawsuit	訴訟
15	disorder	混乱	31	dismissal	解雇
16	convince 人 that ～	人に～を納得させる	32	mistreat	虐待する

33	slam	力いっぱい投げる	39	alternative	代替手段
34	noticeably	著しく	40	apprehensive	心配する
35	bully	いじめっ子	41	rarely	めったに～ない
36	contribute to	～の原因となる	42	neutral	中立の
37	sour	不愉快な	43	nod	うなずく
38	envelope	覆う	44	relief	安堵

第３講　音読用白文　①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨　⑩

The chaos in their classes demolished Mr. Levin's and Mr. Feinberg's assumptions / that their charm, intelligence, and energy would guarantee their success. Anarchy reigned. Children raced up and down the halls. Few of them did their homework. Noise was a constant problem. Students were unimpressed with the new teachers' Ivy League degrees and clever talk.

Quincy, for instance, / was in Levin's class at Bastian Elementary School. He was a sixth grader but didn't look it. Five feet ten inches tall, he was often angry and mean. He teased, taunted, and slapped other children. He paid no attention to teachers / who told him to stop. He saw no reason to do anything asked of him by Levin, / who had almost no experience disciplining children.

Levin sought advice from his principal and the mentor teacher assigned to him. Much of what they told him was vague or didn't work. The general disorder at the school / convinced him that the principal, despite her good heart and sincere desire to make things better, / was not going to be much help with Quincy.

It occurred to Levin and Feinberg, in their weary conversations, / that they were trying too hard to be what they thought teachers should be, / and not trying hard enough to be themselves. They had good instincts in other parts of their life. Why not in their classes? On a particularly tense day, / Levin responded disastrously to this insight / without considering that it might conflict with rules for teacher behavior, / and with the law. As usual, Quincy was wandering around the room, / harassing other students. "Sit down,

Quincy," Levin said. Quincy acted as if Levin did not exist.

"Sit down now!"

No response.

Levin walked up to the boy in the middle of the classroom, / grabbed him under both armpits, picked him up, and carried him back to his seat. Levin had never lifted a child that heavy. He wondered, in a panic, / if he could make it all the way to Quincy's chair without dropping him. His strength gave out just as he got there. Instead of gently lowering the boy into his place, / he dropped him into it, with more force than he had intended. Mortified, Levin retreated to his desk / and began to wonder exactly when he would be fired.

He had been told, more times than he could count, / not to touch kids. It was a huge no-no, an invitation to lawsuits / and a cause for dismissal. He worried about his job. He worried about Quincy. What did it say to a child / who had probably been mistreated from an early age / that a teacher could slam him into his chair?

But Levin noticed that the class quieted noticeably / after Quincy had been put in his place. The boy was a bully. Levin wondered if his failure to protect other children from Quincy / had contributed to the sour mood that usually enveloped his class.

Levin decided to visit Quincy's parents and apologize, / even though home visits were another thing / he had been told not to do. The rule was that contact with parents / had to be limited to the telephone and their visits to the school.

Levin didn't care. He felt bad about what he had done / and could see no alternative to making a personal visit and apology. He found the small wood-frame house / where Quincy lived, not far from the school. He knocked. Quincy's mother came to the door. She was heavyset, shorter than her sixth-grade son. She looked weary. "Good evening, ma'am," he said. "I am Mr. Levin, Quincy's teacher. May I come in?"

She looked surprised to find him on her doorstep. She seemed apprehensive. Conversations with teachers about her son / were rarely pleasant. But she invited him in. Levin sat down on the couch / and gave her an honest look of sadness. "Ma'am," he said, "I feel really bad. Something came up today in class.

I don’t know / if you know that your son has been slapping other kids.”

“I know my boy,” she said in a neutral tone.

“Well, today he wouldn’t listen to me, / so I had to carry him back to his chair.”

She nodded.

“I hope you don’t mind me doing that. I hope I don’t have to do it again.”

“Do whatever you have to do,” she said. She saw the relief in his face. “Listen,” she said, “you’re the first teacher / that ever came to the house. Do whatever you have to do to my son. He doesn’t listen to me. Do whatever you have to do.”

＜復習テストの解答＞

１．彼のクラスの**混沌ぶり**が，彼らのエネルギーによって成功が**保証**されるという**思い込み**を**打ち砕いた**。

２．彼らの**疲れ切った**会話で，**彼らは，自分たちの理想の教師像になるのに一生懸命になりすぎて，自分らしくしようとする姿勢が足りなかったのではないか**という**考えが浮かんだ**。

３．レヴィンは**自分がほかの子どもたちをクインシーから守れなかったせいで**，クラスを**覆う**不快なムード**を引き起こしていた**のかと疑問に思い始めた。

４．虐待する　５．著しく　６．～の原因となる　７．覆う

８．疲れている　９．めったに～ない　10. うなずく　11. 解雇

12. 力いっぱい投げる　13. いじめっ子　14. 不愉快な　15. 代替手段

16. 心配する　17. 中立の　18. 安堵　19. 困らせる

20. 脇の下　21. 恥をかかせる　22. 人に～を納得させる

23. 本能　24. 破滅的に　25. 衝突する　26. さまよう

27. つかむ　28. 優しく　29. 退却する　30. 反応する

31. 洞察　32. 訴訟　33. 破壊する　34. 思い込み

35. 無秩序　36. ～に感銘を受ける　37. いじめる

38. たたく　39. 校長　40. 混乱　41. 混乱

42. 保証する　43. 統治する　44. 意地の悪い　45. あざける

46. しつける　47. A を B に割り当てる

名古屋大英語　第４講　解答

＜解答＞

設問１．亡くなったとされた女性は生きており，生命維持装置を使い続ける権利があるとする家族の主張。(44 字)

設問２．この判決の核心には，たとえ人々がさまざまに生命を理解することを選ぶとしても，死の判定は，社会のすべての人にとって，同じ方法で行わなければならないという原則がある。

設問３．㈡

設問４．肺のような，脳以外の重要な臓器の機能を補助したり，代替するものを移植したりしないほうがよい。(46 字)

設問５．私たちが一体となって死と定義しているのが，脳の全機能が不可逆的に失われることによって，その人物が永遠に亡くなることであり，この判断方法は科学的にしっかりと確立されている。

設問６．ある人間が亡くなった後も，その体の一部が他人の体内で機能し続けること。(35 字)

設問７．that allows families to turn their focus to grieving

設問８．ア (D)　イ (A)　ウ (E)　エ (B)　オ (F)　カ (C)

設問９．(あ) (D)　(い) (F)　(う) (G)　(え) (J)　(お) (C)

＜全訳＞

オンタリオ州高等裁判所の判事であるルシル・ショーは，2017 年の９月にある若い女性が死を宣告された事例で，最終弁論が終わった６ヵ月後の今週長く待ち望まれた裁決を発表した。ショーは，その 27 歳の女性が事実上亡くなったと結論を下して，彼女は生きていて，生命維持装置を使い続ける権利があるとする家族の主張を退けた。

ショー判事は，脳が不可逆的に機能を停止したと医師団が判断した昨年の９月に，この女性は亡くなったと判断した。待たされた時間はみんなにとって痛ましいものだったが，ショー判事の結論は明らかだった。人々は，いつ家族が亡くなったかを，単純明快さと一貫性をもって知る必要があり，また知るに値する。この判決の核心には，たとえ人々がさまざまに生命を理解することを選ぶとしても，死の判定は，社会のすべての人にとって，同じ方法で行わなければならないとい

う原則がある。

もし私たちが生命の本質に異なる考えを抱くかもしれないとしたら，なぜ私たちは死に関する共通の定義を必要とするのか。生命の本質が肺から出入りする，空気中を漂うと信じる文化もある。魂が心臓に宿ると信じる文化もある。また，私たちの脳が世界と交流できるおかげで私たちは存在しているのだと信じる文化もある。

もし個人が自分自身の生命に関する理解を選択できるなら，なぜ彼らは死に関する共通の理解を受け入れなければならないのか。ショー判事は，はっきりとこの疑問に答えた。現代の救命医療においては，死が客観的に判断される場所で，境界線を引かなければならない。

救命医療は，人を生かし続けるという使命において，ますます成功を収めている。救命医療グループで働く看護師，医師，そして介護者は生命を大事にする。私たちの体の機能のほぼすべてが，ある時点までは維持することができて，薬やテクノロジーで代替すらできる。例えば，透析装置は腎臓の重要な機能の代わりができて，強い薬は未熟な心臓に脈を打たせ続けることができる。実際に，多くの人がこうした臓器の移植を受けて生活している。機械によってだろうと移植によってだろうと，これらの臓器が取り換えらえられると，体の機能は無期限に継続できる。

しかし，この集中治療の中心には，脳の維持がある。脳死が起きると，血液も酸素もそこには行き渡らない。脳はあらゆる機能を停止する。失われる機能は何も残っていない。このことは，思考，感情，記憶をもつ力の不可逆的な損失があることを意味する。まばたき，せき，呼吸などの脳幹の機能は不可逆的に失われる。この状況では，肺のようなほかの重要な臓器の機能を補助したり代替したりすることは，目的のない生化学反応の終わりのないループになるだろう。そして可能だからというだけで，臓器の代替行為を追求することになるだろう。

悲劇的なことに，その人物，そのアイデンティティ，そしてその働きは二度と返ってこないだろう。しかし，死の明らかで統一的な定義がなかったら，私たちはその人たちが亡くなったとは決して言えないだろう。私たちが一体となって死と定義しているのが，脳の全機能が不可逆的に失われることによって，その人物が永遠に亡くなることであり，この判断方法は科学的にしっかりと確立されている。

私たちは死後に臓器提供できることを知っており，これらの臓器の機能は，他人の身体で存続する。私たちは，ある人が亡くなったかなりあとに，その血液細胞を生かし続けて，他の組織を機能させ続けることができるのを知っている。私

たちがある人の名残りや組織が「生き続けている」と言える一方で，これをその人が亡くなったという認識と混同してはいけない。

私たち，家族，介護者の誰も，人に死んでもらいたいなどとは思わない。しかし，私たちのすべてがいつ死が起こったのかを知りたい。現代の救命医療が利用できる中で，脳死は，家族が深い悲しみに焦点を向けることを許す，死の最終的な定義になっている。多くの人は心臓の停止の方を，死を意味するものと受け入れている。このことがこの定義と一致するのは，脳死が，酸素を含んだ血液が循環しなくなることで，心臓の死のすぐあとに起きるからだ。

救命医療に携わる人々の間では，ショー判事の決断をありがたく思っている。それは，人々はいつ死が起きるのかを知るに値するからだ。死そのものは確かなもので，いつそれが起きるかの確実性を取り除くことは，単にその現実を避けることが永久に続くことになる。救命医療の進歩は多くの命を救ったが, 私たちは，いつ人が亡くなったのかを知るのを妨げるテクノロジーによる治療の存在を許容できない。現代医療によって，私たちはその限界を一緒に理解することが要求される。

第４講　重要語彙リスト

1	justice	判事	11	clarity	明快さ
2	release	発表する	12	consistency	一貫性
3	overdue	期限切れの，延び延びになった	13	ruling	判決
4	pronounce	宣告する	14	principle	原則
5	argument	議論，主張	15	definition	定義
6	conclude	結論を下す	16	essence	本質
7	reject	拒絶する，却下する	17	lung	肺
8	mechanical life support	生命維持装置	18	reside	居住する
9	irreversibly	不可逆的に	19	by virtue of	～によって
10	cease to do	～しなくなる	20	critical care	救命医療

21	objectively	客観的に	41	tragedy	悲劇
22	mission	使命	42	agency	機能
23	caregiver	介護者	43	uniform	統一的な
24	cherish	大事にする	44	permanent	永久の
25	dialysis machine	透析装置	45	collectively	集合的に
26	kidney	腎臓	46	donate	寄付する
27	potent	（効果の）強力な	47	persist	存続する
28	medication	薬	48	tissue	組織
29	fledgling	未熟な	49	legacy	遺産，遺物
30	beat	脈を打つ	50	be confused with	～と混同される
31	transplantation	移植	51	availability	利用できること
32	indefinitely	無期限に	52	ultimate	最終的な
33	core	核	53	grieving	深い悲しみ
34	intensive	集中的な	54	signify	意味する
35	brain-stem	脳幹	55	congruent	一致する
36	blink	まばたきする	56	cardiac	心臓の
37	cough	せきをする	57	circulate	循環する
38	vital	重要な	58	oxygenated	酸素を含んだ
39	biochemical	生化学の	59	certainty	確実性
40	pursuit	追求	60	perpetuate	永続させる

第４講　音読用白文　①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨　⑩

Ontario Superior Court Justice Lucille Shaw released her long overdue decision this week in the case of a young woman pronounced dead in September, 2017, six months after closing arguments ended. Shaw concluded that the woman, 27, is in fact dead, rejecting arguments presented by her family that she was alive and had the right to continuing mechanical life support.

Justice Shaw determined that this woman died last September when doctors determined her brain had irreversibly ceased to function. While the wait was painful for everyone, Justice Shaw’s decision was clear: People need

and deserve to know with simplicity, clarity and consistency when their family member is dead. At the heart of this ruling is the principle that identifying death has to be carried out in the same manner for all people in society, even if people choose to understand life in different ways.

Why do we need a common definition of death, if we might have different ideas about the nature of life? Some cultures believe that the essence of life is in the air moving in and out of our lungs; others believe that our soul resides in our heart; and still others believe that we exist by virtue of our brain's ability to interact with the world.

If individuals can choose their own understanding of life, then why must they accept a common understanding of death? Justice Shaw answered this question clearly: With modern critical care, a line must be drawn where death is objectively determined.

Critical care has achieved increasing success in its mission to keep people alive. The nurses, doctors and caregivers who work in critical care units cherish life. Almost all of our bodily functions can at some point be supported, and even replaced by medicines and technology. For example, dialysis machines replace the key functions of our kidneys, while potent medications can keep fledgling hearts beating. In fact, many people are living having received transplantation of these organs. Whether by machine or transplantation, when these organs are replaced, bodily functions can continue indefinitely.

But at the core of this intensive support is the preservation of the brain. When brain death occurs, there is no blood and oxygen going to it. The brain ceases all function. There are no functions left to be lost. This means there is the irreversible loss of any ability to have thoughts or feelings or memories. There is the irreversible loss of brain-stem functions such as blinking, coughing, and breathing. In this situation, to support or replace the functions of other vital organs, such as the lungs, would lead to a never-ending loop of biochemical reactions without purpose, and the pursuit of organ replacement activities only because they are possible to do.

The tragedy is that the person, their identity and their agency will never return; but without a clear and uniform definition of death, we would be unable

to ever say that they have died. It is the permanent loss of the person through the irreversible loss of all brain function that we collectively define as death, and determining this is well established in science.

We know that we can donate organs after death, and the function of these organs persists in others' bodies. We know we can keep blood cells alive and other tissues functioning, well after a person has died. While we can say that a person's legacy or tissues "live on," this is not to be confused with the recognition that the person has died.

None of us, family or caregivers, wants people to die. But all of us want to know when death has occurred. With the availability of modern critical care, brain death has become the ultimate definition of death that allows families to turn their focus to grieving. Many are more accepting of a stopped heart signifying death; this is congruent with this definition, as brain death will quickly follow cardiac death from a lack of circulating oxygenated blood.

The critical-care community is thankful for Justice Shaw's decision, because people deserve to know when death occurs. Death itself is a certainty, and to remove the certainty of when it occurs is simply to perpetuate the avoidance of its reality. Critical care advances have saved many lives, but we cannot tolerate the existence of technological care to prevent us from knowing when someone has died. Modern medicine requires that we understand its limits together.

＜復習テストの解答＞

1. ④　2. ②　3. ①　4. ②　5. ③　6. ②　7. ④　8. ④　9. ④　10. ②

名古屋大英語　第５講　解答

＜解答＞

設問 1. 全訳の下線部を参照

設問 2. turn off the set

設問 3. テレビが子どもに害を及ぼす可能性があるという考えには一理あるかもしれないと認めること。

設問 4. ㈠ seriously　㈡ surprisingly　㈢ hardly　㈣ merely

＜全訳＞

テレビは若者の肥満と攻撃性を促すとよく非難されてきた。今やテレビはとても幼い子どもの発展途上の脳を実際に改造して，いわゆる注意欠陥障害のリスクを増やすかもしれないという報告がある。

テレビはほかにも多くの社会的害悪があると非難されてきたので，この新しい主張を退けたくなる。しかし，それは困ったことになるだろう。親はシアトルの小児科病院・地域医療センターの科学者たちによるこの研究を，たぶん，真剣に受け止めるべきだ。

『小児科学』4 月号に報告された研究の中で，1,345 人の子どもたちの親が，子どもの視聴習慣について，またその後の 7 歳の行動について質問をされた。最も多くテレビを見ていた子どもは，集中力の問題，衝動性，落ち着きのなさ，混乱などで上位 10 パーセントにランクされる可能性が高かった。(1)子どもが 3 歳までにテレビを見る時間が，1 日につき 1 時間増えるごとに，7 歳で注意力の問題が生じるリスクが 10 パーセントずつ高くなると研究者たちは言った。

面白いことにその研究はテレビ番組の中身は考慮しなかった。若者の暴力の調査ではずっとそれが悪役だったのだが。テレビを見るという行為そのものが，ある種の神経学的影響があるように思えると彼らは言った。それは特定の心的習慣を作り上げるか，脳からほかの経験を奪うかどちらかによるものだ。この媒体の矢継ぎ早の刺激自体が，のちに焦点を定めたり集中したりする能力の欠如を助長するような心的習慣を作り上げる。「幼い子どもが実生活を経験する方法と対照的に，テレビのペースはものすごく速い」と主任研究員は述べた。

驚くには当たらないが，この発見から，研究チームは 2 歳未満の子どもにはテ

レビをまったく見せないように，また２歳以後の数年間は視聴時間を制限し，監督するようにと勧めた。

これに対して,２つの明らかだが,相反する反応がある。１つは懐疑主義である。幼児やよちよち歩きの子どもの周辺にテレビがあっても親は消さないだろうということはみんな知っている。消さない理由は多すぎるほど存在する。完全な習慣である，テレビは世界で最高の子守りである，多くの時間親自体が番組を見ている，そして最後に，リスクが誇張されているという疑い，などがある。

たしかにわれわれのほとんどがほんの半世紀昔のテレビの発明よりずっと以前から人々が経験してきたように衝動性や落ち着きのなさや混乱だけでなく，集中することの難しさを経験している。注意欠陥障害は人間らしい状況と言えるだろう。テレビのせいであるとは言い難い。

しかし２番目の反応は，テレビが子どもを害する可能性があるという考えには一理あるかもしれないと認めることだ。チームの主任が言ったように，「新生児のネズミの研究から，ネズミをいろいろなレベルの視覚刺激にさらすと，脳の構造が非常に違ってくるように見えるとわかっている」ということだ。子どもの脳が発育途上にある時期に，ある種の視覚刺激にさらされすぎると脳は影響を受ける可能性があるというのは理にかなっている。

それがチームの研究が明らかにしたことである。それは，誰が注意欠陥障害があるか決定することに関する議論を扱わなかった。子どもの中にはほかの子たちより落ち着きがなく衝動的で注意力に欠ける者がいるとだけ述べて，つながりを指摘し，それに対する生理学的説明を提示した。

第５講　重要語彙リスト

1	accuse A of B	A を B で責める	10	impulsiveness	衝動的
2	obesity	肥満	11	restless	落ち着きない
3	aggression	攻撃性	12	confusion	混乱
4	restructure	再構築する	13	up to	～まで
5	so-called	いわゆる	14	content	内容
6	deficit	欠陥	15	villain	悪者
7	disorder	障害	16	inquiry	調査
8	tempting	魅力的な	17	juvenile	若者の
9	dismiss	退ける	18	neurological	神経の

19	stimulus	刺激	29	sheer	まったくの
20	medium	メディア	30	suspicion	疑惑
21	feed	養う	31	overstate	大げさに言う
22	in contrast to	～と対照的に	32	describe A as B	A を B と言う
23	recommend	推薦する	33	acknowledge	認める
24	restrict	制限する	34	expose A to B	A を B にさらす
25	monitor	監視する	35	architecture	建築，構造
26	obvious	明らかな	36	make sense	意味をなす
27	opposite	反対の	37	bear out	証明する
28	skepticism	懐疑主義	38	inattentive	不注意な

第５講　音読用白文　① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

Television has often been accused / of promoting obesity and aggression in the young. Now comes a report / that television may actually restructure the developing brains of very young children, / increasing the risk of so-called attention-deficit disorders.

Because television has been blamed for many other social ills, / it is tempting to dismiss this new claim. That would be a pity. Parents should probably take this study / by scientists at the Children's Hospital and Regional Medical Center in Seattle seriously.

In the study, reported in the April issue of *Pediatrics*, / the parents of 1,345 children were questioned about their children's viewing habits / and then about their behavior at the age of seven. The children who had watched television the most / were more likely to rank in the top 10 percent / for concentration problems, impulsiveness, restlessness and confusion. The researchers said that each hour of television children watch per day / up to the age of three / raises by 10 percent the risk / that they will have attention problems at age seven.

Interestingly, the study did not consider the content of television programs, / which has been the villain in inquiries into juvenile violence. The act of

viewing itself, they said, / appeared to have certain neurological effects / by either setting up particular habits of mind or depriving the brain of other experiences. The rapid-fire stimulus of the medium itself / sets up mental habits that may feed an inability to focus and concentrate later on. “In contrast to the way real life is experienced by young children, / the pace of TV is greatly sped up,” the lead researcher said.

Not surprisingly, their findings led the team to recommend / that children under two should not be allowed to watch television at all / and that their TV time should be restricted and monitored for several years after that.

There are two obvious but opposite responses to this. The first is skepticism. Everyone knows / that parents are not going to turn off the set around their infants and toddlers. There are too many reasons not to: sheer habit; television is the world’s best baby sitter; much of the time parents are watching the shows themselves; and finally, the suspicion that the risk is being overstated.

Surely most of us experience difficulty in concentrating, / as well as impulsiveness, restlessness and confusion, / as people have done since long before the invention of television little more than half a century ago. Attention deficit disorder could be described as the human condition. It can hardly be television’s fault.

The second response, however, / is to acknowledge there might be something to the idea / that television could harm the young. As the team leader said, / “We know from the studies of newborn rats / that if you expose them to different levels of visual stimuli, / the architecture of the brain looks very different.” It makes sense that if a child is overexposed to a certain kind of visual stimulus / during the period when its brain is developing, / it could be affected.

That is what the team’s research bore out. It did not deal with the debate about determining / who has attention-deflcit disorder. It merely said that some children were more restless, impulsive and inattentive than others, / pointed to a link and offered a physiological explanation for it.

＜復習テストの解答＞

１．テレビは若者の**肥満や攻撃性を促すとしてよく非難されてきた**。

２．**媒体**そのものの**矢継ぎ早の刺激**が，のちに集中できないことを**助長する**心の習慣を作ってしまう。

３．**注意欠陥障害**は人間の状況と**説明**できる。

４. もし彼らを違ったレベルの**目に見える刺激にさらす**なら, 脳の**構造**は全然違ったように見える。

５．ＡをＢにさらす	６．疑惑	７．大げさに言う	８．ＡをＢで責める
９．いわゆる	10. 欠陥	11. 障害	12. 魅力的な
13. 退ける	14. 肥満	15. 落ち着きない	16. 混乱
17. ～まで	18. 内容	19. 悪者	20. 調査する
21. 若者の	22. 神経の	23. 刺激	24. 矢継ぎ早の
25. メディア	26. 養う	27. ～と対照的に	28. 推薦する
29. 制限する	30. 監視する	31. 明らかな	32. まったくの
33. 攻撃性	34. 再構築する	35. ＡをＢと言う	36. 認める
37. 衝撃的	38. 建築，構造	39. 意味をなす	40. 証明する
41. 不注意な			

名古屋大英語　第６講　解答

＜解答＞

設問１．(1) (J)　(2) (I)　(3) (E)　(4) (F)

設問２．ビクトリア女王の戴冠後の200年未満の間に，世界人口が７倍に増えたこと。(36字)

設問３．短期間のうちに，その地域の人口と人口構成が変化して，国境を越えた影響力を持つようになった。

設問４．急速だがむらのある人口増加の加速化，急落する乳幼児の死亡率，出生率の低下，19世紀ヨーロッパ人口のヨーロッパ以外の土地への流出

設問５．(D)

設問６．(A)，(C)

＜問題と選択肢の訳＞

設問５．

(A) 20世紀の情報科学技術

(B) 1960年代の経済変化

(C) 19世紀の政府の変化

(D) 1945年以降の人口統計の変化

(E) ローマ帝国期の人口変化

設問６．

(A) 紀元前47年には，世界人口のおよそ５分の１がローマ共和国に住んでいた。

(B) エリザベス皇太后は，たった１人姉妹がいて，兄弟はいなかった。

(C) イギリスでは，乳幼児死亡率はビクトリア朝時代に，急激に減少した。

(D) アン女王の子供は１人も１歳を過ぎるまで生き延びなかった。

(E) オーストラリアの人口は減少してから，ここ200年で増加した。

(F) イギリスの人口の急増は，産業革命の原因だった。

＜全訳＞

　ここ200年かそこらの変化が，どれほど完全に革命的だったのかを理解するのに，人口統計を長期的視点で見ることが役に立つ。紀元前47年に，ジュリアス・

シーザーがローマ共和国の終身の独裁官に指名されたとき，その領土は，現在のスペインから現代のギリシャ，北はフランスのノルマンディーまで，そしてその他地中海沿岸の大部分にまで広がり，それは現在の 30 以上の国を含む地域だった。これらの広大な土地の人口は，およそ 5000 万人から成り，それはおよそ 2 億 5000 万の世界人口の約 20% だった。18 世紀以上後に，ビクトリア女王が 1837 年に以後イギリスの王位についたとき，地球上で暮らす人の数は，10 億人くらいまで増えて，4 倍の増加だった。しかし，ビクトリア女王の戴冠から 200 年もたたないうちに，世界人口はさらに 7 倍増えた。つまり，10 分の 1 の期間にほぼ 2 倍になったのである，この後者の掛け算は，驚くほど急速で，地球が変わるほどの影響を与えた。

1840 年から 1857 年の間に，ビクトリア女王は，9 人の子供を産んだが，その全員が成人まで生き残った。イギリスのそれ以前の女性君主であるアン女王は，1714 年に 49 歳で亡くなった。彼女は 18 回妊娠したが，悲劇的なことに，1 人の子供も彼女より長生きしなかった。ビクトリア女王の死のわずか 29 年後の 1930 年までに，イギリスのもう 1 人の偉大な女性リーダーである皇太后が，エリザベス（現在の女王）とマーガレットの 2 人しか子供を産まなかった。アン女王，ビクトリア女王，エリザベス皇太后の 3 人の女王に関するこうした事実が，18 世紀から 20 世紀の間にイギリスで始まり，のちに世界中に広がる 2 つの傾向を的確に表している。

まず，乳幼児死亡率が急激に下がり，子供の死は，親たちに一般的な苦しみではなく，ありがたいことに変則的なものになった。第二に，それに続けて，女性一人が産む平均の出生数が劇的に減少した。アン女王の時代に，次から次へと子供を亡くすことはよくあることだった。ビクトリア中期のイギリスでは，子供をたくさん持つことは，まだ標準的だった。子供が完全に大人になるまで生き残っていることは，珍しかった（この点，ビクトリア女王には，富だけではなく運も味方した）が，間もなくふつうのことになった。20 世紀の両大戦間の年代までには，両方の娘が成人まで生き残っているという皇太后が抱いたような期待は，少なくともイギリスでは極めて標準的になった。

ビクトリア女王が 1819 年に生まれた時，およそ 3 万人というごく少数のヨーロッパ人がオーストラリアで生活していた。その当時のオーストラリア先住民の数ははっきりしないが，概算では，30 万～ 100 万人だった。ビクトリア女王が 20 世紀の初めに亡くなった時，その数が 10 万人に満たない一方で，ヨーロッパから来たオーストラリア人は，ほぼ 400 万人にのぼった。それは 80 年前の 100

倍以上の数だった。１つの大陸の人口の数と人口構成のこのような変化が，一人の人間の一生涯の期間に起きたのだ。それは，オーストラリアを完全，かつ永久に変えて，その国が２つの世界大戦において，イギリスの作戦に食糧を供給し人員を派遣することで，重要な役割を果たすようになるくらい，オーストラリア国境を越えて大きな影響を与えた。同様の話がカナダやニュージーランドについても言える。

　これらの驚愕の事実，急速だがむらのある人口増加の加速化，急落する乳幼児の死亡率，出生率の低下，19 世紀ヨーロッパ人口のヨーロッパ以外の土地への流出は，すべてつながっている。それらは，産業革命に伴う，同一の重大な社会変革の結果生まれて，のちに歴史の流れに恐るべき影響を与えた。つまり，他の国を犠牲にして，一部の国と地域を強大にし，国家や帝国の運命を決定し，現代社会の基礎を築いたのである。

第６講　重要語彙リスト

1	revolutionary	革命的な	17	latter	後者の
2	demography	人口統計	18	multiplication	掛け算
3	be appointed	～に指名される	19	astonishingly	驚くほど
4	perpetual	永久の，終身の	20	transformative	変化させる
5	dictator	独裁者，執政官	21	give birth to	～を産む
6	the Roman Republic	ローマ共和国	22	adulthood	成年
7	domain	領域，領土	23	monarch	君主
8	stretch	広がる	24	pregnancy	妊娠
9	the rest of ～	～の残り	25	tragedy	悲劇
10	the Mediterranean	地中海(沿岸地域)	26	matriarch	女性リーダー
11	comprise	～から成る	27	neatly	きちんと
12	approximately	およそ	28	represent	表す
13	ascend	(王位など)につく	29	subsequently	のちに
14	throne	王位	30	precipitous	急激な
15	fourfold	4 倍の	31	infant mortality	乳幼児死亡率
16	coronation	戴冠	32	mercifully	慈悲深いほど

33	agony	苦痛	45	acceleration	加速
34	brood	ひな鳥，（子だくさんの）家族	46	plummet	急落する
35	indigenous	土着の	47	fertility	出生率
36	estimate	概算	48	outpour	流出する
37	range from A to B	A から B に及ぶ	49	profound	深い，重大な
38	composition	構成	50	accompany	～に伴う
39	continental	大陸の	51	formidable	恐るべき
40	play a ～ role	～な役割を果たす	52	empower	権限を与える
41	provision	食糧供給する	53	at the expense of	～を犠牲にして
42	man	人員配置する	54	fate	運命
43	startling	驚愕の	55	lay	～を置く
44	selective	より好みの	56	foundation	基礎

第６講　音読用白文　①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨　⑩

To get a sense of how completely revolutionary have been the changes of the last two hundred years or so, it helps to have a long view of demography. When in 47 BC Julius Caesar was appointed perpetual dictator of the Roman Republic his domain stretched from what is now called Spain to modern Greece, as far north as Normandy in France, and much of the rest of the Mediterranean, a region that today contains over thirty countries. The population of these vast lands comprised around 50 million people, which was about 20% of a world population of approximately 250 million. More than eighteen centuries later, when Queen Victoria ascended the British throne in 1837, the number of people living on earth had grown to something like 1,000 million, a fourfold increase. Yet less than two hundred years after Victoria's coronation, world population has increased a further seven times — nearly twice the growth in a tenth of the time. This latter multiplication is

astonishingly rapid, and has had a transformative global impact.

Between 1840 and 1857 Queen Victoria gave birth to nine children, all of whom survived into adulthood. Britain's previous female monarch, Queen Anne, had died in 1714, aged forty-nine. She had eighteen pregnancies but her tragedy was that not a single child survived her. By 1930, just twenty-nine years after the death of Queen Victoria, another great British matriarch, the Queen Mother, had produced only two children, Elizabeth (the present queen) and Margaret. These facts about three queens — Anne, Victoria and Elizabeth the Queen Mother — neatly represent the two trends that began in Britain between the eighteenth and twentieth centuries and which have subsequently spread across the world.

The first was a precipitous drop in infant mortality, with the death of a child becoming mercifully irregular rather than a common agony for parents. The second, which followed, was a dramatic reduction in the average number of children born per woman. In Queen Anne's time, losing child after child was common. In mid-Victorian Britain, having a large brood was still the norm. Its complete survival into adulthood was unusual (in this, Victoria had luck as well as wealth in her favour) but would shortly become usual. By the interwar years of the twentieth century, the Queen Mother's expectation that both her daughters would survive into adulthood was quite normal, in Britain at least.

When Queen Victoria was born in 1819, only a small number of Europeans — around 30,000 — were living in Australia. The number of indigenous Australians at that time is uncertain, but estimates range from between 300,000 to 1 million. When Victoria died at the start of the twentieth century, there were fewer than 100,000, while Australians of European origin numbered nearly 4 million, more than a hundred times as many as eighty years earlier. This transformation in the size and composition of a continental population occurred in the space of a single lifetime. It changed Australia completely and forever, and would have a significant impact beyond Australia's shores, as the country came to play a major role in provisioning and manning British efforts in both world wars. A similar story can be told of Canada and New Zealand.

These startling facts — the rapid but selective acceleration of population growth; plummeting infant mortality rates; falls in fertility; the nineteenth-

century outpouring of European populations to lands beyond Europe — are all connected. They are born of the same profound social changes that accompanied the industrial revolution and have proved to be a formidable influence on the course of history, empowering some countries and communities at the expense of others, determining the fate of economies and empires, and laying the foundations of today's world.

＜復習テストの解答＞

1. ③　2. ④　3. ②　4. ①　5. ②　6. ④　7. ①　8. ②　9. ④　10. ②

名古屋大英語　第７講　解答

(1)	line	(2)	do	(3)	pleasure	(4)	③
(5)	asked	(6)	come	(7)	day	(8)	②
(9)	what	(10)	while	(11)	not at	(12)	what
(13)	second	(14)	Depends on	(15)	②		

Input Sheet

1	drop O a line	O に手紙を送る
2	自動詞の do	十分だ
3	どういたしまして× 2	My pleasure. Don't mention it.
4	当然の報いだ× 2	You asked for it. Serves you right.
5	なんで？× 2 （why 以外）	How come S V? What ～ for?
6	Let's call it a day!	今日はここまで
7	S がどんなものか	what S is like
8	久しぶり× 3	Long time no see. I haven't seen you for a while. It's been a long time.
9	Do you mind? の答え方（承諾）×2	Not at all. Of course not.
10	例えばどんな？	Like what?
11	second to none	誰（何）にも劣らない
12	一概には言えない	It depends.

＜復習テストの解答＞

1．O に手紙を送る　2．十分だ　3．My pleasure. ／ Don't mention it.

4．You asked for it. ／ Serves you right.　5．How come S V? ／ What ～ for?

6．Let's call it a day! ／ So much for today!　7．what S is like

8．Long time no see. ／ I haven't seen you for a while. ／ It's been a long time.

9．Not at all.　10. Like what?　11. second to none

12. It depends.

名古屋大英語　第８講　解答

(1) Time flies. It has been three years since I came to Italy to study.

(2) The longer I live abroad, the more important for me the letters from home are.

(3) The more I learn about literature, the more difficult it is to regard poems as a mere expression of emotions.

(4) The reason why they start teaching Japanese seems to be because they make students interested in study.

(5) The reason why children keep themselves in their own room is because they seem to have their own spiritual world that is independent of their parents, so it is not always bad.

(6) Such a desire for technological development has destroyed the natural environment.

(7) It is true that in recent years products made by advanced technologies, such as computers or cell phones, have made our lives more comfortable.

(8) Taking medicine will make you get over tuberculosis in six to eight months.

(9) The movie made me think about my future.

(10) The experience has made me get a more important role.

Input Sheet

1	時がたつのは早い	Time flies.
2	S が V してから何年たつ	It has been ～ years since S V.
3	～すればするほど，ますます…	The ＋比較級～ , the ＋比較級….
4	A を B ととらえる	regard A as B
5	感情表現	an expression of emotions
6	S が V したのは～だからだ	The reason why S V is because ～ .
7	自室に閉じこもる	keep oneself in one's room
8	～から独立する	be independent of
9	精神的世界	spiritual world
10	科学技術の	technological
11	そのような	such
12	欲望	desire
13	自然環境	the natural environment
14	破壊する	destroy
15	近年	in recent years
16	携帯電話	cell phone
17	先端技術	advanced technology
18	製品	product
19	快適な	comfortable
20	S のおかげで O は C する	無 S make O C.

＜復習テストの解答＞

1．It has been ～ years since S V.

2．Time flies.

3．The + 比較級～, the + 比較級….

4．regard A as B

5．an expression of emotions

6．The reason why S V is because ～.

7．keep oneself in one's room

8．be independent of

9．spiritual world

10. technological

11. desire

12. the natural environment

13. destroy

14. such

15. in recent years

16. cell phone

17. advanced technology

18. product

19. comfortable

20. tuberculosis

21. 無 S make O C.

名古屋大英語　第９講　解答

⑴ A girl who preferred reading alone to playing with other children is playing an active part in Japan's national football team.

⑵ Those who make such a remark are old-fashioned.

⑶ This tendency became more striking, especially when in the latter half of the 20th century, enterprises began producing what we didn't need very much.

⑷ In fact, I don't know the real reason why I hit upon the idea of going to a riverside.

⑸ I have read the fact in something that there aren't fireworks displays in Okinawa.

⑹ I'm glad that there are more and more exchanges between rural and urban areas.

⑺ In general, there are said to be many cultural heritages in Asia.

⑻ I heard the story in a newspaper from someone that there are some elementary school children in Tokyo who can't tell dogs from pigs, and it made me consider many things.

⑼ These days, there are a flood of manuals and guidebooks everywhere. On the other hand, the number of young people who don't know what to do or don't do anything unless they are told to do this or that is increasing.

⑽ The number of foreign people who speak Japanese well has been increasing. It's a good thing for me as a Japanese who is poor at speaking foreign languages.

Input Sheet

1	B より A が好き	prefer A to B
2	活躍する	play an active part
3	発言をする	make a remark
4	〜する人々	those who
5	時代遅れの	old-fashioned
6	〜世紀後半	the latter half of the 〜th century
7	企業	enterprise
8	〜なもの	what 〜
9	傾向	tendency
10	顕著な	striking
11	実のところ	in fact
12	川原	riverside
13	〜がある	There is（are） 〜 .
14	花火大会	fireworks display
15	農村	rural areas
16	都市	urban areas
17	交流	exchange
18	一般的に	in general
19	文化的遺産	cultural heritage
20	小学生	elementary school children
21	A と B の区別をつける	tell A from B
22	昨今	these days
23	氾濫している	There are a flood of 〜
24	一方では	on the other hand
25	S が増えている	The number of S is increasing.

＜復習テストの解答＞

１．prefer A to B

２．play an active part

３．make a remark

４．those who

５．old-fashioned

６．the latter half of the -th century

7．enterprise
8．what ～
9．tendency
10. striking
11. in fact
12. riverside
13. There is(are) (not) ～.
14. fireworks display
15. rural areas
16. urban areas
17. exchange
18. in general
19. cultural heritage
20. elementary school children
21. tell A from B
22. these days
23. There are a flood of ～.
24. on the other hand
25. The number of S is increasing

名古屋大英語　第10講　解答

＜解答＞

設問1．ア (A)　イ (E)　ウ (F)　エ (G)

設問2．お (A)　か (E)　き (B)

設問3．(C)

設問4．科学技術が拡大して，専門分化が進んだせいで，科学者でも，科学の中の別の分野の領域は，理解が難しいという状況。(54字)

設問5．恐竜やヒッグズ粒子論，宇宙論のような実生活とまったく無関係な主題に，どれほど多くの人間が興味を抱いているかは，本当に驚くべきことだ。

設問6．ダーウィンの時代には，一般の読者が理解できる方法でその発見を提示できたが，今日では，難解な式や専門用語なしにはその提示が難しいということ。(69字)

設問7．私たちは，地球上の生命の起源にまでさかのぼることができる壮大な進化の過程の結果であると明らかにすることで，それ［「種の起源」］は私たちの人間に対する認識を変えた。

＜問題と選択肢の訳＞

設問2．

(A) 結果として　(B) 例えば　(C) さらに
(D) 結論として　(E) 対照的に　(F) 第二に
(G) 驚いたことに

設問3．

(A) 王立協会は，科学者を受け入れるが，人文学者は受け入れない。
(B) 王立協会は，健康と安全の規則に従うことで，恐ろしい実験すら行う。
(C) 王立協会は世界中から情報を集めて，様々な学問を扱っている。
(D) 王立協会は，世界地図を作るために，研究員たちを世界の様々な地域に送る。

＜本文の全訳＞

　イギリスの科学の教育機関である王立協会は，1660年に設立された。その最初期の会議では，科学者は旅人の話を共有したり，新しく発明された顕微鏡をの

ぞき見たり，空気ポンプ，爆発，毒の実験をしたりした。その最初期の研究員には，大学者のクリストファー・レンやロバート・フックや，多作の日記著者であるサミュエル・ピープスのような熱狂的な素人もいた。時々その集まりは，恐ろしいものになった。ピープスは，羊から人間に輸血し，驚いたことに，その人間が生きのびたことを記録した。健康と安全に関する規則のせいで，今日では，王立協会の会議は，いささか退屈なものになっているが，その先導役としての精神は健在だ。最初からすぐに，協会は，科学は国際的かつ学際的なものであることを認識していた。

もちろん科学や技術は，次の数世紀の間に大きく発展した。結果として，現代の王立協会の研究員は，特別な専門家集団となっている。この事実が，科学と大衆の間だけではなく，異なる専門領域間の障壁をさらに大きくする。物理学者として，私自身がもつ残念ながらあまりに限られた現代生物学の知識のほとんどは，そのテーマに関する「大衆的な」本から得たものだ。

科学者と人文学者の間に強い分断があったら，レン，フック，ピープスのような有識者を困惑させただろう。1959 年に，小説家，批評家，化学者である C.P. スノーは，ケンブリッジ大学で行われた，「２つの文化」に関する象徴的な講義でこの分断を嘆いた。彼の分析には，多くの真実があったし，それは現在でも通用する。私たちがカバーする文化的な範囲は残念ながら狭すぎるのだ。しかし，スノーが提示したこの二分法はあまりに厳しいものだったが，それは，ひょっとすると，彼が活動した社会的環境の結果かもしれない。彼は，第二次世界大戦で戦力に組み込まれた科学者や技術者に親近感を抱き，人類の向上における，科学の役割に関して，強い楽観主義をずっと持っていた。彼が言うには，その世代は「未来が体に染みついて」おり，彼が別の機会に「権力の回廊」と呼んだ場所を徘徊した。彼らは，とりわけイギリスの首相であるハロルド・ウィルソンに影響を与えた。ウィルソンは，1963 年の労働党大会の有名なスピーチで「この白熱した技術革新」を激賞した。対照的に，スノーがもっともよく知っており，1950 年代の文学文化を，彼に代わって代表した人文学者たちは，古典言語に強く重点を置いた学校教育と，しばしばそれに続くオックスフォードやケンブリッジの狭い社会での３年間によって，知的活動に制約を受けた。

スノーが心配した問題は，現代ではより不気味に立ちはだかるばかりだ。社会はますます先進技術に依存している。科学はかつてないほど私たちの生活に浸透している。しかし，科学に関する明るい楽観主義は薄れてきた。多くの地域で，識者たちは興奮というより，ためらいの視点で新しい科学的大発見の影響をとら

えている。スノーの時代以降，私たちの「すばらしい」新たな科学技術は新しい脅威を生み出し，新しい倫理的な板挟みを提示した。多くの評論家は，科学は，政治家も大衆もそれと同化したり対処したりすることができないほど，手に負えなくなってきていると懸念している。その危険性は今もより高くなっている。科学は大きな機会を提供するが，未来の世代は，核，遺伝子，アルゴリズムのリスクに脆弱で，そのリスクは私たちの文明の存続そのものを危険にさらすほど強力だ。

自身のもともとの講義に基づいた，後の出版物の中でスノーは，社会科学を包含する「第３の文化」があると示唆した。今日では，「文化」という考えそのものが多くの織り交ざった糸を含むという方が真実に近いかもしれない。それにもかかわらず，知的に狭量であったり，無知であったりすることは，依然としてよく見られ，科学は政治やメディアに身をおく悩ましいほど多くの人にとって閉ざされた本である。しかし，それとちょうど同じくらい多くの人が，自国の歴史や文学を知らない。科学者には，嘆く特別な理由がない。実際に，恐竜やヒッグズ粒子論，宇宙論のような実生活とまったく無関係な主題に，どれほど多くの人間が興味を抱いているかは，本当に驚くべきことだ。意識，生命，そして宇宙そのものの起源のような大きな根本的疑問への驚くべき，そして喜ばしい関心がある。

例えば，チャールズ・ダーウィンの考えは，1859 年に最初に日の目を見てからずっと，文化的に哲学的に強い印象を与えてきた。実際に，それが現代ほど活気のある議論を呼び起こしたことはかつてない。ひょっとすると，ダーウィンは一般の読者が理解出来る方法で研究を提示できた最後の科学者だったかもしれない。現代では，恐ろしいほどの方程式の列や専門用語なしに独自の発見を提示するのは難しい。ダーウィンが自分の理論の基礎となる「１つの長い主張」と表現した「種の起源」は，文学作品として高い評価を受けている。私たちは，地球上の生命の起源にまでさかのぼることができる壮大な進化の過程の結果であると明らかにすることで，その本は私たちの人間に対する認識を変えた。

第 10 講　重要語彙リスト

1	found	設立する	5	fellow	研究員
2	peer	のぞく	6	polymath	大学者
3	microscope	顕微鏡	7	enthusiastic	熱狂的な
4	airpump	空気ポンプ	8	prolific	多作な

9	gruesome	恐ろしい	36	white heat	白熱
10	(blood) transfusion	輸血	37	typify	代表する
11	render O C	O を C にする	38	straitjacket	束縛する
12	somewhat	いくらか	39	loom	不気味に現れる
13	dull	退屈な	40	pervade	浸透する
14	multidisciplinary	学際的な	41	glad	明るい
15	professional	専門家	42	quarter	地域
16	aggravate	悪化させる	43	breakthrough	大発見，飛躍的な進歩
17	subject	主題	44	ambivalence	ためらい
18	demarcation	区別	45	hazard	危険，脅威
19	humanities	人文学	46	quandary	板挟み
20	perplex	困惑させる	47	assimilate	同化する
21	critic	批評家	48	stake	賭け金，危険性
22	bemoan	嘆く	49	vulnerable	脆弱な
23	iconic	象徴的な	50	jeopardise	危険にさらす
24	dichotomy	二分	51	embrace	包含する
25	starkly	厳しく	52	interweave	織り込む
26	milieu	環境	53	strand	糸
27	affinity	親近感	54	endemic	特有で，よく見られる
28	retain	保持する	55	moan	嘆く
29	robust	強固な	56	remarkable	驚くべき
30	optimism	楽観主義	57	blazingly	非常に
31	betterment	改善，向上	58	irrelevant	無関係な
32	have O in one's bones	O が体に染みついている	59	practical	実際の
33	roam	徘徊する	60	dinosaur	恐竜
34	the corridors of power	権力の回廊	61	cosmology	宇宙論
35	extol	激賞する	62	gratifying	喜ばしい

第 10 講　音読用白文　①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨　⑩

The Royal Society, the United Kingdom's academy of sciences, was founded in 1660. At its earliest meetings, scientists shared travellers' tales, peered through newly invented microscopes, and experimented with airpumps, explosions and poisons. Its earliest fellows included the polymaths Christopher Wren and Robert Hooke, along with enthusiastic amateurs such as the prolific diarist Samuel Pepys. Sometimes gatherings turned gruesome: Pepys recorded the event of a blood transfusion from a sheep to a man — who, amazingly, survived. Health and safety rules render Royal Society meetings somewhat duller these days, but the guiding spirit remains. Right from the start, the Society recognised that science was international and multidisciplinary.

Science and technology, of course, hugely expanded over the following centuries. As a result, the Royal Society's present-day fellows are specialised professionals. This fact aggravates the barrier between science and the public, as well as between different specialisms. As a physical scientist, most of my own all-too-limited knowledge of modern biology comes from 'popular' books on the subject.

The sharp demarcation between scientists and humanities scholars would have perplexed intellectuals such as Wren, Hooke and Pepys. In 1959 the novelist, critic and chemist C. P. Snow bemoaned this divide in his iconic lecture on the 'Two Cultures', presented at the University of Cambridge. There was (and still is) much truth in his analysis; we are all too narrow in our cultural reach. However, Snow presented the dichotomy too starkly — a consequence, perhaps, of the social milieu in which he moved. He felt an affinity with scientists and engineers who had been part of the war effort in the Second World War, and retained a robust sense of optimism about the role of science in human betterment. That generation had 'the future in their bones', he said, and roamed what he elsewhere called the 'corridors of power'. They influenced, among others, the UK's prime minister Harold Wilson, who extolled 'the white heat of this technological revolution in a celebrated speech at the 1963 Labour Party conference. In contrast, the humanities scholars whom Snow

knew best — and who typified, for him, the literary culture of the 1950s — had been intellectually straitjacketed by schooling with a strong focus on Classical languages, often followed by three years in the narrow social world of Oxford or Cambridge.

The issues that concerned Snow loom only larger today. Societies are increasingly dependent on advanced technology; science pervades our lives more than ever. But the glad optimism about science has faded. In many quarters, observers view the impact of new breakthroughs with more ambivalence than excitement. Since Snow's time, our 'marvellous' new technologies have created fresh hazards and raised new ethical quandaries. Many commentators are anxious that science is getting out of hand, such that neither politicians nor the public can assimilate or cope with it. The stakes are higher now too: science offers huge opportunities, but future generations will be vulnerable to risks — nuclear, genetic, algorithmic — powerful enough to jeopardise the very survival of our civilisation.

In a later publication based on his original lecture, Snow suggested that there was a 'third culture', one embracing the social sciences. Today it might be truer to say that the very idea of 'culture' has many interweaving strands. Nonetheless, intellectual narrowness and ignorance remain endemic, and science is a closed book to a worrying number of people in politics and the media. But just as many people are ignorant of the history and literature of their own nation. Scientists don't have a special reason to moan; in fact, it's really quite remarkable how many people are interested in subjects as blazingly irrelevant to practical life as dinosaurs, the Higgs boson and cosmology. There is a surprising and gratifying interest in fundamental big questions — such as the origins of consciousness, of life, and of the cosmos itself.

Charles Darwin's ideas, for example, have been culturally and philosophically resonant ever since they were int unveiled in 1859. Indeed, they've never provoked more vibrant debates than they do today. Darwin was perhaps the last scientist who could present his research in a way, accessible to general readers; today, it's hard to present original findings without a forbidding array of equations, or a specialised vocabulary. 'On the Origin of Species', which he

described as ‘one long argument’ underpinning his theory, ranks highly as a work of literature. It changed our perception of human beings by revealing that we were an outcome of a grand evolutionary process that can be traced back to the beginning of life on Earth.

＜復習テストの解答＞

1. ①　2. ④　3. ④　4. ④　5. ①　6. ③　7. ②　8. ④　9. ②　10. ④

Ⓒ RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。